

ふるさと学習推進のための地域資源紹介リスト

「地域として地域の子どもたちに伝えたいこと」

平成 26 年 2 月作成

飯田市では、子どもたちの地域を愛する心、地域を誇りに思う心を醸成するため、自分が生まれ育った地域を知り、地域の良さを学ぶ「ふるさと学習」を市内の全小中学校において推進しています。また、キャリア教育においてもふるさと学習を中核とした年間指導計画を作成し、小中9年間見通した取り組みとなってきています。

ふるさと学習の中では、地域資源に地域の人たちはどう関わっているのか、そしてどういう想いを持っているのかを学習し、そこから地域を愛する心を育むことが求められます。

飯田市には公民館活動等を通じて、地域への愛着や地域を担う人材が育まれてきた土壌があります。このリストは、そうした公民館の土壌と学校での教育を繋ぎ、学校、地域、そして家庭が一緒になった「ふるさと学習」が行われるように地区公民館の協力のもと作成いたしました。

～ お願い ～

- ・ふるさと学習の計画・実施については、地域と学校が連携した取り組みとなるようぜひ地区公民館にご相談ください。
- ・このリストを基に団体等に講師を依頼する場合は、地区公民館の主事にご相談ください。
(地区外の事象を取り上げる場合にも同様)
- ・このリストは先生方の研修会等にもご活用ください。

～ 目次 ～

2	…	橋北地区	18	…	龍江地区
3～5	…	橋南地区	19～20	…	竜丘地区
6	…	羽場地区	21	…	川路地区
7	…	丸山地区	22～25	…	三徳地区
8	…	東野地区	26	…	山本地区
9～10	…	座光寺地区	27～30	…	伊賀良地区
11～14	…	松尾地区	31	…	鼎地区
15	…	下久堅地区	32～33	…	上郷地区
16	…	上久堅地区	34	…	上村地区
17	…	千代地区	35～36	…	南信濃地区

橋北地区

橋北公民館
TEL 24-0310

分野	主な内容	説明	講師	時期
地域づくり	橋北面白倶楽部の活動	橋北地域固有の資源を活かしたイベントを多様な主体と連携し企画運営し、橋北地区内を知り、元気にしていく団体の地域づくり活動。例:さくら祭、夏祭、イルミネーションフェスタなど	橋北面白倶楽部	通年
歴史	飯田の祭りとお練り祭り	丘の上を中心に行われる飯田を代表する数多くのお祭りお練り祭りの歴史など		通年
文化	お囃子復活事業	お練り祭り参加を目標に、飯田大火による焼失前の、山車やお囃子の復活を進め、現在お囃子の練習中(横笛・太鼓)学校の取り組み遠山地区との交流とも連携していきたい。	橋北地区伝統文化保存継承PJ	通年
文化	橋北音頭	数年前に復活させた盆踊り。踊りの振り付けDVDなども作成し普及を目指す。	橋北面白倶楽部	夏頃
歴史	菱田春草について 記念公園含む	郷土の生んだ日本画家の偉人。その人物や絵画について(整備の始まる記念公園も含め)、人物・絵画・場所・取り巻く組織など	橋北まちづくり委員会 飯田市美術博物館	通年
歴史	歴史的建造物が多く残る街並み(黒須家・柳田家の門、下伊那教育会館、くつわ小路)	知っていても語れない。地域固有の資源について、知り、残す、賑わうを実現するために学習やイベント活動を行っている橋北の位置づけや街並みの移り変わり	橋北まるごと博物館 研究会	通年
環境	旧飯田測候所を活用した学習 [国登録有形文化財]	国の有形登録文化財の指定も受けた建物 気象観測施設であることから、環境学習の場として活用したい	橋北公民館 旧飯田測候所指定管理組織	通年
歴史	旧飯田藩馬場調練場の門(旧脇坂門) [市有形文化財]	1869年(明治2)2月に馬場町の馬場調練所を修理した時に、その門を二ノ丸の下屋敷門として移築したもので、幕末には奥の御殿(西御殿)に姫がいたと伝えられている。脇坂氏の時代(1617年～1672年)に近くに家老脇坂玄蕃(げんば)の屋敷があったことから、「脇坂門」とも呼ばれている。現在は、美術博物館の正門の向かいにあるが、橋北地区の旧測候所へ移築されることとなっている。	美術博物館学芸員	通年
歴史	浜井場小学校の歴史	学校の略沿革史を元に地元の方との関わりや、学校を取り巻く状況など		通年
歴史	下伊那教育会館	下伊那教育会館内に貯蔵されている資料等を活用した学習活動		通年
歴史	城下町の寺院	橋北地区内に数多く点在する寺院について、個々の歴史と共に多く点在していた歴史についても一緒に		通年
防災	三六災	野底川の氾濫など地域に残した爪痕、当時の記憶、記録など	災害時消防団員として活躍された方	通年
防災	飯田大火	飯田市中心市街地に多大な被害をもたらした大火。焼失前と焼失後、また焼失を免れた地域についての学習も		通年
自然	地区内に点在する名桜	桜まつりでも活用するが、橋北地区内には、飯田市内でも有数の名桜が点在する地区。その歴史や現在の状況など		春頃
自然	黄梅院(おうばいいん)の紅だれ桜 [市天然記念物]	武田信玄ゆかりの寺に咲く桜。赤みが濃く色鮮やかな推定樹齢400年の名桜		春頃
自然	風越山	丘の上のシンボルであり飯田のシンボルでもある。登山や絵画、自然学習で多岐に渡り学習活動に活かしたい		通年
産業	丘の上の和菓子について	老舗が多い丘の上の和菓子(洋菓子含む)店の歴史など		通年
産業	地場産業について	曲げ物、染め物、紬、裂き織		通年

橋南地区

橋南公民館
TEL 24-0327

分野	主な内容	説明	講師	時期
防災	飯田の大火(おひまち)	1947年(昭和22)4月20日に発生した飯田大火を忘れず、日々の生活の中でも防火の意識を高めるために、毎年4月20日に一番近い日曜日に、拍子木を叩きながら 町内を練り歩く。それに合わせて追手町小学校児童から防火に関する標語を募集し、おひまちの時に読み上げを行っている。これにより、小学生が地域の歴史について考える機会となっている。	橋南連合青壮年会 飯田市消防団第一分団 橋南公民館	4月20日に一番近い日曜日
歴史	裏界線(りかいせん)	地区内に張り巡らされている「裏界線」を学ぶことで、普段何気なく歩いている道の歴史について改めて見直し機会にしてほしい。		通年
歴史	御用水(ごようすい)	飯田城下の生活用水や防火用水として人々の生活になくてはならないものだった井水「御用水」について、知ってもらいたい。また、井筋に沿った、途中の周辺史跡も見学しながら、取水口付近まで歩きながら解説してくれる。		通年
産業	元結(桜井)文七(もっといぶんしち)	美濃(岐阜県)生まれで、1689年(元禄2)に箕瀬町に移り住み、元結(和紙で作った紙を結う紐。現在は相撲取りの鬘を結うときに使う)の製法を改良し、光沢のある強い元結を作ることに成功した。江戸に店を出して販売し、「飯田元結」の名を広め、「文七元結」として高く評価された。のちに、飯田へ帰って元結職人を多く育て、1753年(宝暦3)に70歳で亡くなった。	飯田水引協同組合	通年
自然	桜丸の蚊母樹(イスノキ) [市天然記念物]	暖かい地方に生息するマンサク科の照葉樹で、飯田・下伊那地方にはただ1本の珍しい木である。葉に虫こぶができることから、その名前が付いている。樹齢200年余と推定される。	伊那谷自然友の会	通年
歴史	桜	橋南地区内には、愛宕神社の清秀桜、千代蔵(ちよぞう)桜、美術博物館の安富桜、県合同庁舎内にある夫婦(めおと)桜など、桜の銘木が多くある。銘木を知ってもらうとともに、周辺の史跡などについても知ってもらいたい。	飯田観光ガイド	4月
自然	愛宕神社の清秀桜(せいしゅうざくら) [市天然記念物]	愛宕稲荷神社の境内にある、推定樹齢750年といわれるエドヒガンの老木。胸高周囲6.7m。老木のため、幹が朽ちて空洞ができています。寺(のちの地藏寺)の住職清秀法印が1240年(仁治元)にその境内に手植えしたという言い伝えがあることから、清秀桜の名で親しまれている。	桜守 飯田観光ガイド	通年 (開花時期は4月初旬)
歴史	飯田城跡、城下町	飯田城跡、城下町について学ぶことで、自分たちが住んでいる土地の歴史について知ってもらいたい。		通年
歴史	飯田城桜丸御門(赤門) [市有形文化財]	県合同庁舎の敷地内にある。赤いベンガラがぬらされていたことから「赤門」と呼ばれている。門の脇には番所があり、屋根の鬼瓦には堀氏の家紋「向梅鉢(むこうめばち)」が付いている。1757年、10代堀親雲(ちかしげ)の時代に作られた。普段、赤門の扉は閉められているが、毎年4月の2週間余り開門され、自由に通り抜けができる。開門行事は、向かいにある追手町小学校の入学式の日に行われ、その年に入学した新生児が赤門の通り抜けを行う。	美術博物館学芸員 (構造については、建築の組合が詳細を調査しているとのこと)	通年 (赤門開門は4月初旬から中旬まで)

文化	大名行列 [市無形文化財]	七年に一度(申・寅年)行われるお練りまつりのメインの出し物の一つ。明治五年申年のお練りが初回。若州小浜城主、播州姫路城主、奥州仙台城主より諸道具を譲り受けたもので、様式は百万石の格式と称せられ、男持薙刀、白車熊槍、富士形槍などは国宝級の逸品である。行列の仕方、所作、芸は往時を継承しており、市街地を練る絢爛豪華な行列は徳川三百年の風俗を偲ぶことができる。大正八年遷都五十年行事に上京し天覧を賜り、以来行列の先頭に天覧旗が翻っている。	本町3丁目大名行列 保存会	
文化	各町の源氏名と祭り法被	平成25年度に、各町内が有する「源氏名」と秋季祭典に使用する「祭り法被」についてまとめた本を刊行した。それをういて、地区内の歴史や文化について学んでもらい、地域に愛着を持ってもらいたい。	橋南の源氏名と祭り 法被編集委員会	通年
歴史	観耕亭碑(かんこんていひ) [市史跡] (長姫神社)	1859年(安政6)に建立。昌平坂学問所教授方安積良斎(あさかごんさい)撰文、高橋豊珪(たかはしほうけい)書。この碑には「文武に励んだ11代堀親義(ちかのり)は、折を見ては場外に出て自然を眺めることを楽しみにしていたが、外出すると農事の邪魔になるので、場内に小さな建物を作り、そこから人々が農耕にいそむ姿と自然を眺めていた。これは賢いものの楽しみで、領主の政治の模範とすべきである」という意味のことが記されている。白山社境内の千葉葛野(ちばかどの)の碑、二本松の普門院跡の堀成子(しげこ)による糸桜(いとざくら)歌碑と並んで、飯田三碑の一つと言われている。	美術博物館学芸員 柳田國男民俗学研究所	通年
歴史	福島家住宅 [市有形文化財]	本町4丁目にある、飯田でただ一つ、ほぼ完全な形で残る武家屋敷。飯田藩主堀氏から、飯田藩中級武士の福島家に与えられた。建物は、古くは板葺屋根の平屋建てで、引き戸の門は元松皮(もとひわだ)葺き、両側に白壁の塀がある。質実剛健な武士の生活が偲ばれる。	美術博物館学芸員	通年
歴史	愛宕神社、長姫神社	橋南地区内にある、愛宕神社と長姫神社について、本殿の彫刻・神社に残る絵図・古文書等の歴史資料に触れることで、その歴史を学んでほしい。	<愛宕神社> 愛宕神社氏子総代 <長姫神社> 美術博物館学芸員	通年
文化	阿弥陀如来坐像(あみだ によらいざぞう) [市有形文化財] (柏心寺)	像高51.8cmの木造漆箔の像で、鎌倉時代前半期の作とされる。運慶・快慶の流派である慶派仏師の作風の影響を受けている。		
歴史	柏心寺(はくしんじ)山門 [市有形文化財]	箕瀬町1丁目にある浄土宗のお寺。1571年(元龜2)に上伊那郡宮田村に建てられたのち、1597年(慶長2)に、飯田城主京極高知(たかとも)の命令により、現在地へ移されたといわれる。山門は、江戸時代前期の建築物。四脚門(しきゃくもん)という形の門で、懸魚(げぎょ)などに桃山風の様式を伝えている。		通年
文化	菱田春草の墓 (柏心寺)	菱田春草は「黒き猫」「落葉」「王昭君(おうしょうくん)」など数々の名作で知られる日本画家です。本名は菱田三男治(みおじ)。1911年(明治44年)没。飯田市美術館に「菊慈童(きくじどう)」「春秋(しゅんじゅう)」などの作品が所蔵されている。		

文化	飯田市立追手町小学校 校舎及び講堂 [国登録有形文化財]	校舎は1929年(昭和4)、講堂は1931年(昭和6)建設。ともに2005年12月に国登録有形文化財に指定された。 <校舎> 敷地の北辺一杯に建つ鉄筋コンクリート造3階建校舎。東西両端を円弧として校庭側にわずかに折った平面をもつ。一般教室は4間に5間の規模である。昇降口は円弧部に設け、縦溝(たてみぞ)付の円柱、三中心アーチ、短い庇で飾る。長大な外壁は柱形を強調してリズムを造り出している。 <講堂> 敷地の南辺東寄りに建つ鉄骨造、平屋建て、桁行25間、梁間10間。半切妻(はんきりづま)屋根を鉄板葺とする。外壁は付柱に下見板張で、出入口には切妻庇がつく。内壁は白漆喰塗で、腰を縦羽目板張とし、室内を折上格(おりあげごう)天井とし、鉄骨構造部材を見せない形式とする。		通年
文化	田中芳男(たなかよしお)	博物学者、物産学者、農学者、園芸学者。近代日本の博物館・博覧会・図書館・動物園の創設に関わり、農林水産業の発展、殖産興業の指導に尽力した。「博物館」という名称を生み出し、「日本の博物館の父」と称されている。また、殖産興業の発展を計るため、博覧会開設の必要性を提唱し、数多くの博覧会実務を担当、成功させ「日本の博覧会の父」とも称される。現在、飯田市美術博物館に胸像が、中央通り1・2丁目の交差点近くに、弟義廉(よしかど)と一緒に顕彰碑(けんしょうひ)が建っている。	美術博物館学芸員	通年
文化	田中義廉(たなかよしかど)	田中芳男の実弟で、日本で最初の国語教科書『小学読本(しょうがくとくほん)』を編纂した。義廉は辞書も編纂しており、編纂した辞書は飯田市立図書館に保存されている。	美術博物館学芸員	通年
文化	日夏耿之助(ひなつこうのすけ)	飯田市名誉市民第1号に選ばれた、詩人・文学者・翻訳家。本名は樋口国登(くにと)。1896年(明治23)に知久町3丁目の大商家であった樋口家に生まれた。早稲田大学や青山学院大学の教授を務め、晩年は愛宕に暮らした。著書に『明治大正詩史』『飯田之記』等、翻訳に『院曲サロメ』他がある。飯田美術博物館敷地内に書簡や使用した品々を展示した日夏耿之助記念館がある。また、白山社や風越山山頂、りんご並木などに石碑がある。	美術博物館学芸員	通年
環境	ラベンダー	橋南地区で平成21年から主税町、通り町3・4丁目に植栽しているラベンダーについて、ラベンダーの手入れもしながら、学んでほしい。ラベンダーを用いたクラフトや水引細工を作成方法も指導してくれる。	橋南まちづくり委員会 環境委員会	5月～11月
産業	水引	飯田の伝統産業である水引について、水引細工を作りながら学んでほしい。	手の芸の会	通年

羽場地区

羽場公民館
TEL 23-9749

分野	主な内容	説明	講師	時期
歴史	羽場の石造文化財	羽場地区は「曙の里」ともいわれ、自然が豊かであり農作業に好適地で、人々の生活の場として古くから開けてきた歴史があります。そんなことから地域の歴史を物語る貴重な石造物が数多くあります。「羽場の昔を学ぶ会」の方々が発刊された「羽場の石造文化財」を元に、羽場の歴史について学びます。	羽場の昔を学ぶ会	通年
歴史	日樹上人の墓(にちじゅしょうにん) [市史跡] (本山白山神社)	日蓮宗大本山、東京池上本門寺の第16代世首である日樹上人の墓所が飯田市羽場権現、元山白山神社の境内南側にあります。江戸時代前期の石造五輪塔としては、形、大きさ、銘がはっきりしており、長野県と飯田市の文化財に指定されています。墓所の石造から日樹上人の生涯と地域の歴史を学びます。	羽場の昔を学ぶ会	通年
歴史	高鳥屋(たかどや)山と三十三観音	猿倉の泉から高鳥屋山山頂までの1時間20分程度の行程に三十三の観音があります。その意味や歴史を山を散策しながら学びます。	曙友会	通年
自然	大平街道と大平宿	飯田と木曾を結ぶ峠宿として発展した「大平宿」は昭和45年に集団移住を余儀なくされました。その後昭和51年に大平宿をのこす会が発足され「いろりの里・大平」として集落跡の民家を利用した生活体験学習の場として活用されています。生活体験学習のなかで原生活と歴史を学びます。また、大平街道には三十三観音もあります。	NPO法人大平宿をのこす会 羽場の昔を学ぶ会	通年
文化	猿倉の泉	名水百選に選ばれる「猿倉の泉」の歴史に触れながら、茶席の文化を学びます。	猿倉の泉保存会	通年
歴史	御用水(ごようすい)	古くから地域の用水として先人たちが守り、城下町や城内でも用水として使われた「御用水」。生活の要である水をテーマに地域の歴史を学びます。	御用水愛護会	通年
環境	林業体験学習	曙友会所有の森林にて「間伐」、「枝打ち」などの林業体験を通して、環境について学びます。	曙友会	10月頃
自然	正永寺(しょうえいじ)桜	正永寺原にあり、桜の研究者によって発見され昭和46年に新品種として認定された一本桜。その特徴について学びます。	正永寺桜保存会	通年
文化	羽場獅子舞	羽場地区の伝統芸能である「羽場獅子舞」は羽場獅子舞保存会が中心となって継承しております。歴史から現在の活動、舞のストーリーなどを学びます。	羽場獅子舞保存会	通年
自然	探鳥会	地域を歩きながら野鳥を観察します。季節の野鳥の種類の変容によって環境を考える機会とします。風越山とかざこし子どもの森公園を会場に春と冬の年間2回開催。	羽場公民館 丸山公民館	5月・12月
自然	羽場の大栂(オヒイラギ) [市天然記念物]	飯田市羽場町の元山白山神社参道に入る中央道橋の手前にヒイラギの巨木があります。室町時代後期小林家氏神の御神木として植えられたと言い伝えられており、樹齢は500年余と言われます。貴重な大樹であり、飯田市の天然記念物に指定されています。ヒイラギの歴史と手入れの様子などを学びます。	羽場の昔を学ぶ会	通年
自然	正永寺原の公孫樹(イチョウ) [市天然記念物]	室町時代に飯田城主坂西由政(ばんざいよしまさ)が、この地に曹洞宗円悟(えんご)山正永寺を建てたときに植えられたものといわれています。推定樹齢は500年位といわれ、昭和47年に飯田市の天然記念物に指定されました。下枝にコブが垂れ下がっていて、昔は「これを削って煎じて飲むと産婦のお乳の出が良くなる」といわれていました。イチョウの歴史から地域の歴史を学びます。	羽場の昔を学ぶ会	通年

丸山地区

丸山公民館
TEL 23-5872

分野	主な内容	説明	講師	時期
自然	風越山登山	登山の面白さを味わい、精神面や体力面を育成することに役立ててもらおう。	風越山を愛する会 丸山公民館	通年
地域づくり	風越山検定	風越山を題材にした検定を行い、得点に応じてキッズマイスターを認定し、登山ガイドなどを行う。	風越山を愛する会 丸山公民館	通年
文化	白山社里宮(さとみや)拝殿「旧護摩堂」 [市有形文化財]	享保18年(1733)に建てられた白山寺の護摩堂で、廃仏毀釈(はいぶつきしゃく)での破壊を白山社の拝殿として免れた。		通年
文化	白山社隨身門(ずいじんもん) [市有形文化財]	総けやき造り、高さ11m、奥行き4m、間口7mの唐破風三間楼門(からはふさんげんろうもん)造り、文政11年(1828)の建造で、多様で絢爛な彫刻が施されている。		通年
文化	白山社奥社本殿 [国重要文化財]	室町時代の永正6年(1509)の墨書がある。昭和15年・49年、平成16・17年に修理が実施された。		通年
文化	白山社奥社幣殿(へいでん)・拝殿、隨身門 [市有形文化財]	拝殿は本殿(重文)の正面に続き屋根の一部は向拝(こうはい)とつながる。向拝は本殿の扉や羽目に描かれた絵を保護している。隨身門も含めて江戸中期に建てられたものとみられる。		通年
文化	風越山白山社奥社境内地 [市史跡]	白山社は神仏習合(しんぶつしゅうごう)の社で奥社があるこの山を権現山と呼んで往古から信仰の対象としてきた。境内には宗教的な要素を持つ石造物が点在している。		通年
自然	風越山のベニマンサクの自生地 [県天然記念物]	標高600～1400mに群生する。暖地性の植物で分布の東北限にあたり、隔離分布や繁殖経路の研究資料となっている。		
自然	風越山山頂のブナ林・ミズナラ・イワウチワ等の自生地及び花崗岩露頭 [市天然記念物]	風越山頂に残る手つかずのブナ林とミズナラの原生林で、希少種のイワウチワ自生地となっている。また花崗岩の巨石が造る風穴がある。		
自然	間伐材を使ったもの作り	人の手を加えることで豊かな自然を保つために伐採する間伐材を使い、箸やキーホルダーなどの小物から本立てなどのモノづくりを通して自然の恵みと人の暮らしについて考える環境学習にする。	かざこし木楽会	通年
産業	丸山の早生(わせ)赤梨 [市天然記念物]	推定樹齢約120年で、梨の栽培樹としては伊那谷で最も古く、飯田下伊那の梨栽培の原点となった梨の木である。		
自然	阿弥陀寺のシダレザクラ [市天然記念物]	千体仏観音堂前面にあり、胸高周囲4.2m、樹高15.0mで、樹勢・樹形とも良好な古木である。		春頃
産業	水引体験教室	地場産業である水引について学び、体験を通して伝統文化に触れてもらう	田中宗吉商店	通年
文化	太鼓教室	風越山を題材にして作られた太鼓教室。伝統文化を継承していく丸山地区の新しい文化として活動している。	丸山狗寶太鼓	通年
文化	千体仏観音堂(阿弥陀寺) [市有形文化財]	飯田城主脇坂安政(わきざかやすまさ)公の建立で、寛文12年(1672)の建造と推測される。		通年
歴史	尊王義士甲子紀年碑(そのうぎしきのえねきねんひ)	元治元年(1864)11月24日、尊王攘夷の旗印を掲げた水戸浪士天狗党が飯田を通過した際、今宮の原で昼食をとったことを記念し明治34年に建立された。		通年

東野地区

東野公民館
TEL 24-9144

分野	主な内容	説明	講師	時期
地域づくり	桜並木	地域の財産として守られており、東野の一つの大きな名所となっている。地域づくりや自然を守る取り組みを学習していただきたい。	桜並木保存会	通年
文化	飯田人形劇場 ハミングバル	人形劇のまち飯田のシンボルとして、飯田人形劇場が文化会館敷地内に、ハミングバルは桜並木に設置されている。文化として定着した人形劇の歴史を次代に広めていきたい。	いいだ人形劇フェスタ 実行委員会	通年
文化	東野大獅子	飯田お練り祭りと同じ寅と申の年だけお披露目される地域の伝統芸能として、保存会員が中心となって代々引き継がれている。歴史や現在の状況、会員の活動への思いを学習していただきたい。	東野大獅子保存会	通年
歴史	JR飯田線	現在の飯田線の基礎を作った伊原五郎兵衛(いはらごろべえ)の頌徳碑(しょうとくひ)が飯田駅バス停前にある。伊那谷交通開発の功労者について知ってもらいたい。		通年
歴史	大宮神社	春秋の祭典やお練り祭りの大祭が行われていたり、農産物の神や鎮護の神として信仰が厚かったりする神社の歴史を学習していただきたい。	大宮神社総代	通年
歴史	太子堂	聖徳太子を本尊としているお堂が宮ノ上にある。国力の充実に力を注いだ人物を知る機会としてもらいたい。		通年
歴史	飯田藩主堀家の墓所(長久寺) [市史跡]	飯田藩6代藩主堀親蔵(ちかただ)、9代親民(ちかたみ)、11代親義(ちかのり)3基の笠塔婆(かさとうば)のほか、藩主の妻や一族の墓がある。		通年
その他	ラウンドアバウト	東和町交差点で、信号機による交差点をラウンドアバウトに変換したのは全国初のことである。ラウンドアバウトの有用性を学習していただきたい。	飯田市建設部	通年

座光寺地区

座光寺公民館
TEL 22-1401

分野	主な内容	説明	講師	時期
歴史	歴史学習	座光寺に数多く点在する歴史資産。国史跡指定予定の恒川(ごんが)遺跡や県史跡指定の高岡古墳、南本城など座光寺に数多く点在する歴史資産。ふるさと座光寺マップを教材に現地学習をする。	歴史に学び地域をたずねる会	通年
歴史	高岡第一号古墳 「県史跡」	県の史跡に指定されている高岡第1号古墳。飯伊地区最大級の前方後円墳です。石室の構造が朝鮮半島の古墳に似ています。出土品は多数あり、一部が麻績史料館に保管されています。	歴史に学び地域をたずねる会	通年
歴史	畦地(あぜち)1号古墳 [市史跡]	市の史跡に指定されている畦地1号古墳。畦地古墳群6基の内現在残っているのはこれのみです。石室の構造が朝鮮半島の古墳に似ています。日本ではとても珍しい銀製の耳飾りも発掘されています。	歴史に学び地域をたずねる会	通年
歴史	釈迦涅槃像(しゃかねはんぞう) [市有形文化財] (元善光寺)	市の有形文化財になっている釈迦涅槃像。木造で室町時代につくられた像です。		通年
歴史	恒川遺跡群 [国史跡予定]	国の史跡に指定される恒川遺跡群。ここは奈良・平安時代に伊那郡の役所があった場所です。この周辺は古墳時代から豪族たちの拠点となっていて、東国の玄関口にも位置し、陸や川の交通の上でも重要な場所だったことから、ここに伊那郡の都がつけられたと考えられます。全国を見ても数少ない「富本銭(ふほんせん)」もこの近くから見つかっています。	歴史に学び地域をたずねる会	通年
歴史	耕雲寺(こううんじ)の羅漢門(らかんもん) [市有形文化財]	耕雲寺は5代将軍綱吉から下馬札が下付されたといわれるなど寺格の高い禅寺です。耕雲寺には市有形文化財に指定されている、羅漢門と十六羅漢があります。浦島太郎にでてくる竜宮城を思わせるアーチ型の門が特徴です。		通年
歴史	南本城(みなみほんじょう)城址 [県史跡]	県の史跡に指定されている南本城城址。全体が防御施設のかたまりのような城で、防御専一のために短期間で築城されたと考えられています。誰がいつ頃築城したか等を裏付ける史料がなく多くの謎に包まれた史跡です。	歴史に学び地域をたずねる会	通年
歴史	北本城(きたほんじょう)城址	日常的に城主の座光寺氏が住みこの土地を治めるためのお城でした。恒久的建物の他に簡易的な建物や櫓などの存在も判明しています。座光寺氏は諏訪大祝家の神氏の一族でした。天正3年に美濃国の岩村城で討ち死にして没落しました。	歴史に学び地域をたずねる会	通年
歴史	元善光寺	麻績の郷の住人 本多善光が、後に善光寺の本尊となる阿弥陀三尊を飛鳥時代に難波から持ち帰った場所と言われ、古くは如来寺(にょらいじ)とよばれていました。宝物殿にも多くの仏像がおかれています。		通年
歴史	舞台校舎の学習	県宝になっている「舞台校舎」。舞台校舎が建てられるまでの経過や、特徴的な構造、銅のように使われていたのかなどを学ぶ。	麻績の里振興委員会	通年
歴史	座光寺の石川除け(治水)	あばれ天龍の洪水被害を防ぐため、江戸時代に巨石を積んで造られた堤防。利水という川の恩恵の裏腹にある洪水と戦ってきた地域の歴史、江戸時代の優れた土木技術、時代により移り変わる天龍川の流路の変化等を学習できます。	歴史に学び地域をたずねる会	通年
自然	ホタル観察	座光寺に生息するヘイケ・ゲンジボタルの生態や生息場所の学習。また、それを保護しているお話	水辺の広場委員会	夏

自然	水辺の広場で遊ぼう	阿島橋下の水辺の広場を活用した「飯盒炊爨(はんごうすいさん)」「生物観察」「天竜川探検」などの体験学習	水辺の広場委員会	夏
自然	植物・生物の観察	植物の特徴やそれを使った昔ながらの遊び、身近なところにいる生物の特徴等の学習		通年
自然	麻績の里舞台桜 [市天然記念物]	市の天然記念物にもなっている舞台桜。世界に1本しかないと言われている理由等の学習	子ども桜ガイド	春
自然	アサギマダラの観察	小学生と一緒に植樹を行ったフジバカマにアサギマダラが飛来するようになったため、アサギマダラの観察と併せて、その生態や特徴を学ぶ。	アサギマダラを守る会	秋
自然	米づくり体験	地域内の遊休農地を活用した米づくり体験 米づくりだけでなく、なぜ遊休農地を使うのかなど、地域の状況も併せて学習する。	麻績楽農隊	通年
自然	山ぶどうジュースづくり	地域内の遊休農地を活用した山ぶどうの栽培 山ぶどうづくりだけでなく、なぜ遊休農地を使うのかなど、地域の状況も併せて学習する。	麻績山ぶどうの会	通年
自然	キノコづくり	山の木を切り、切った木にキノコの菌を駒打ちし、収穫する。	麻績山ぶどうの会	通年
文化	竹田人形講座	地元劇団竹田人形座竹の子会の観劇や、糸操り人形を演じる体験、人形作りなど。	竹田人形座竹の子会	通年
文化	世代間交流	月に数回開催されているお年寄りの皆さんの集まりに参加し、昔ながらの遊び等を教えてもらい体験する	高岡歌笑会、喜楽サロン、おしゃべりサロン	通年
産業	座光寺饅頭	座光寺名物の座光寺饅頭。昔は多くあった饅頭の店舗も今では2店舗しか残っていません。座光寺住民なら一度は食べたことのあるこのまんじゅうの歴史や作り方などを学習します		通年

松尾地区

松尾公民館
TEL 22-0091

分野	主な内容	説明	講師	時期
産業	天竜舟下り	弁天港と時又港を35分ほどで結ぶ天竜川下り。渓谷にこだまする櫓音(ろね)と水しぶきは爽快。急流驚流峡(がりゅうきょう)は川がスリル満点。時折水しぶきをビニールでよけるのも楽しみのひとつ。		
自然	ラフティング体験教室	近年危険などの理由から特に子どもが天竜川と親しむ機会が減ってきているが、川の危険性に関する基本的なことを抑えておけば川は楽しい自然体験の場にもなる。実際に体験をすることで川の危険を知り、自然のすばらしさを知る機会となります。		
防災	天竜川の災害	昭和36年6月、台風6号の接近と梅雨前線の停滞により、伊那谷では1週間で年間平均雨量の3割を超える豪雨(飯田観測所:総雨量579mm<6/23~7/1>)を記録しました。この豪雨のため、各地の支川で大増水となり、天竜川本川や支川の各地で堤防の破堤、氾濫が発生しました。この三六災の被害を大きくした最大の要因は、土砂災害です。流域の各地で土砂崩れなどの土砂災害が発生し、その数は伊那地方全体で1万ヶ所を超えたとされています。特に、大鹿村では、6月28日に大西山が大崩落して32戸が流失、死者40人、行方不明者15人を出すという大惨事が発生しました。一方、中川村の四徳集落では、四徳川からの鉄砲水により集落が流されると同時に土砂崩れによる災害が発生し、集落が壊滅状態に陥りました。この災害後、天竜川では河川改修計画の変更や土砂災害対策などが全面的に実施されることになりました。	松尾史学会	通年
防災	祝井沢樋門(災害時内水排除)	祝井沢川、金色洞川等天竜川支流では、過去台風等により天竜川の水位が上昇し、逆流によって河川が氾濫して床下、床上浸水等の被害をもたらしている。そのことから台風等による被害を最小限におさえるため、災害時には内水排除や樋門操作を行っている。排水に使用するポンプや資材は水神水防倉庫に配備しており、地元の自治会役員や市職員などが作業にあたる。災害時に備え、毎年出水期前に講習会も行われている。		通年
環境	井水(水の歴史)	松尾地区には8本の井水があり、災害や水による紛争等様々な歴史の中で地域住民により守られてきた。農業用に整備されてきたものだが、時代背景とともに生活用、防火用、環境用など多様な用途を有する「地域用水」として現在でも大きな役割を果たしている。		通年
自然	毛賀くよとのシダレザクラ [市天然記念物]	推定樹齢300年、胸高周囲3.8m、樹高15mを測る古木である。「くよと」とは供養塔のことであり旧遠州街道沿いにある秋葉様・蚕玉様・天神様などの石碑群の上を覆っている。樹勢もよく枝振りも極めてよくシダレザクラの典型的樹形を保っている。他の桜の古木に比べ枝枯れ、枝折れも少なく道路を覆って伸び出る枝は15mを越え、開花期には見事な花の天蓋をつくる。地元住民は常夜灯の灯明を絶やすことなく管理して大切に桜を守っている。	毛賀区	春頃
自然	水佐代獅子塚(みさじろしづか)のエドヒガン [市天然記念物]	飯田市史跡「水佐城獅子塚古墳」の前方部墳丘上にある胸高周囲5m、樹高15mを測る大木で、樹齢は300年以上と推定される。市内で最も早く開花するエドヒガンザクラで、この桜が開花し始めてから数日たつと丘の上の市街地の桜が一斉に開花する。この木は江戸時代の中ごろ、この塚に埋葬されている豪族の霊を慰めようと植えられたもので、その後多くの人の世話を受け、現在に至るまで古墳とともに地区の人々の信仰を受けている。地元の人達は「おたちふの桜」と呼び親しんでいる。	水城区	春頃

文化	菅田別尊坐像(ほんだわけのみことざぞう) [国重要文化財] (鳩ヶ嶺八幡宮)	像高約99センチの等身大の坐像で、巾子冠(こじかん)を戴き腹前で笏(しゃく)を執る衣冠束帯の姿を呈する。重厚な体躯(たいく)、眼光鋭く森厳(しんげん)な相好は武神に相応しい威厳に満ちている。胎内墨書銘(たいないぼくしょめい)より「八幡大菩薩(はちまんたいぼさつ)」として建治3年(1277)から正応元年(1288)まで12年間かけて制作されたことがわかる。応神(おうじん)天皇を八幡神と合体とする説は平安初期以前からあり、当社では諱(いみな)である菅田別尊の呼称を用いている。八幡神像の作例は、東大寺僧形八幡神坐像に代表されるような僧形のものとなり、本像のように完全な俗体としてあらわされる作例はあまり知られていない。造形的にも優れ制作年代も明らかなことからその存在価値は甚だ高い。	松尾史学会	通年
歴史	松尾の史跡巡り	松尾地区には松尾城址や古墳などの史跡が点在している。これらを実際に見学することで、市域の史跡や文化、自然に対する知識向上と愛着新の向上を図る。	松尾史学会	通年
歴史	鳩ヶ嶺八幡宮随神門(ずいじんもん) [市有形文化財]	八幡宮の木造門で、寺院の仁王門に当たるもの。享保6年(1721)に建立され、右と左に櫛磐間戸命(くしいわまどのみこと)・豊磐間戸命(とよいわまどのみこと)がまつられている。神像は天明6年(1786)飯田の井出祐正(いでゆうしょう)の作。	松尾史学会	通年
歴史	鳩ヶ嶺八幡宮本殿 [市有形文化財]	三間社流造、極彩色、銅板葺。柱間は正面3間・側面2間で、切妻(きりづま)造りの屋根とし、母屋の前に1間通りの庇(ひさし)をつけて向拝(こうはい)としている。神社の創建は重要文化財菅田別尊坐像が安置されていることから鎌倉時代までさかのぼり得るが、本殿に飯田城主脇坂氏の紋があることや脇坂安村が建立したとする棟札(むなふだ)があることから、建築年代は明らかである。江戸時代中期の様式の社殿がよく保存されている。	松尾史学会	通年
歴史	鬼神面(きしんめん) [市有形文化財]	鳩ヶ嶺八幡宮所蔵の面で、鎌倉時代から桃山時代の作とみられ、八幡宮に付属した神宮寺に関わりがある。現在は美術博物館に収蔵されている。		通年
歴史	鳩ヶ嶺八幡宮の獅子頭 [市有形文化財]	当地域は瑠璃寺(高森町大島山)を嚆矢(こうし)とする優填王(うてんのう)の獅子引きによる獅子舞が今も盛んである。鳩ヶ嶺八幡宮の蔵する獅子頭はそれらとは系統の異なるいわゆる祈祷獅子の類で、「青獅子」と呼ばれ雨乞いに用いられたといわれる。その形状は、顎部が長く前方に伸び、眼球の瞳の部分前方へ飛び出ている。これに立体感のある眉間の皺(しわ)が相まって特徴ある表情を作り出している。用途からしても度々補修が必要とされたことが想像されるが、中世に遡る獅子頭の特徴を損なうものではない。	松尾史学会	通年
歴史	毛賀諏訪神社本殿 [市有形文化財]	健御名方命(たけみなかたのみこと)を祀る社で、創立は不詳である。本殿は一間社流造、銅板葺(元こけら葺)で間口五尺三寸の中規模な社殿である。棟札から文化12年の再建であることがわかる。地元の大工による建築であるが、初代立川和四郎富棟(たてかわしろうとみむね)二代和四郎富昌(とみまさ)のいずれかに学んだものとみえ、木割りや彫刻に立川流の技法が見られる。向拝正面の虹梁(こうりょう)上に龍、木鼻に象・唐獅子、扉脇に竹・亀・松・鶴、扉上に梅、脇障子に牡丹・唐獅子、唐松・唐獅子の彫刻をつける。向拝と母屋の繋ぎは伝統的な海老虹梁としているが、その上の手挟みは牡丹の冠彫り(かしらぼり)となっており凝っている。	松尾史学会	通年

歴史	旧飯田城の八間門(はっけんもん) [市有形文化財]	もとは飯田城二の丸入口にあった八間門で、明治4年(1871)に松尾の個人宅へ移築された。門は切妻造、棧瓦(さんがわら)葺、桁行(けたゆき)五間、梁行(はりゆき)四間、二階建て、中央に大きな扉、左右に潜戸(くくりど)のつく三間一戸櫓門(やぐらもん)である。二階は扉口より前面に張り出し、石落としを設けている。	松尾史学会	通年
歴史	菩薩面(ぼさつめん) [市有形文化財]	面長で目鼻口の各部位は小ぶりにあらわされ、穏和な印象を与える。髻(もとどり)はなく、天冠台(てんかんだい)は上から二段の列弁・紐一条・連珠・紐一条を彫出し、髪際は束目をあらわし毛筋を線刻する。正面の列弁には別材の宝冠をつけたのか孔を穿つ(あなをつがう)。立体感に乏しい毛筋の彫り口や精気を欠いた相好など造形的には妙味を欠くが、室町時代の作と考えられる。本面は、鳩ヶ嶺八幡宮に明治初期まで付属した神宮寺に所属し、来迎会などの行道面として使用されたと推測できる。室町時代の古面であるとともに、当地方にもそうした仏教行事があったことを裏づける資料として貴重である。	松尾史学会	通年
歴史	八幡の道標 [市史跡]	宝暦10年(1760)に設置されている。下条街道と秋葉街道の分岐点である鳩ヶ嶺八幡宮前に位置する。		通年
歴史	代田山狐塚(しろたやまきつねづか)古墳 [県史跡]	全長約42mの飯田・下伊那唯一の前方後方墳で、墳丘はよく残っており、周溝の痕跡が確認できる。詳細は不明であるが、東海からの影響を受けた前期古墳で、竪穴式石室が埋葬施設と考えられる。見学路が整備され、墳丘・周溝を観察することができる。	松尾史学会	通年
歴史	水城の水佐代獅子塚(みさじろしづか)古墳 [市史跡]	本古墳は前方部を南西に向けた前方後円墳であるが、後円部の一部が旧状を保つとみられるものの、周囲は宅地・道路により削平されており、前方部端部など大きく形を変えている。そのため規模は特定できないが、残存状況から全長53~57m、後円部径33m、前方部前端部幅21~23m、高さは3~4m程度と推定される。『下伊那史』第二巻によると、石室があり刀が出たとの記載があるが、正式な発掘調査を実施していないため詳細は不明である。後円部では埴輪が採集されている。墳丘上の祠周辺の石には石室石材を転用したとみられるものもあり、これまで横穴式石室とされてきた経過もあるが、墳形や周囲の状況から竪穴式石室の可能性も否定できない。	松尾史学会	通年
歴史	御射山獅子塚(みさやましづか)古墳 [市史跡]	本古墳は前方部を南西に向けた前方後円墳である。古墳の規模は現状で全長約64m、後円部の径32m、前方部前端部幅46m、高さ8m程度で、市内の前方後円墳の中でも大型の部類に入る。一部削平されているが、残存状態は比較的良好である。これまでに正式な発掘調査は実施されていないが、『下伊那史』第二巻によると、かつて横穴式石室があり、周囲の開墾の際に破壊されたとの記載があり、また鏡・土師器(はじき)・須恵器(すえき)が出たとされるがこれとの関連は不明である。このため、本古墳についての情報は現時点ではほとんどないが、南側に隣接する茶柄山古墳群は前方後円墳1基を中心とする5世紀後半の古墳群で、発掘調査により馬の埋葬墓が10基確認されたことで、馬生産にかかわる集団の墓地であることが明らかとなっており、この古墳群との密接な関連が想定できることから、当地方の古墳時代における位置づけとしても重要な古墳の一つであるといえる。	松尾史学会	通年

歴史	羽場獅子塚(はばしづか)古墳	羽場獅子塚古墳は、これまで前方後円墳とされていたが、平成24・25年度に古墳の形態や規模を確認するための調査を行った結果、削られた前方部の痕跡を確認し、さらに大きさが40mになる前方後方墳であることが分かった。	松尾史学会	通年
歴史	犬塚家	犬塚家は19世紀初期に建てられたと推定される町家建築。市街地の町家は1947(昭和22)年の飯田大火でほぼすべて焼失したため、市内に残る最古の町家の一つとされている。	松尾史学会	通年

下久堅地区

下久堅公民館
TEL 29-8001

分野	主な内容	説明	講師	時期
地域づくり	柿野沢生産者組合の活動	体験修学旅行などで利用が多く、体験メニューである五平餅づくりなどはもちろん地域づくり団体としての活動経過を知ってほしい。	柿野沢生産者組合	
地域づくり	大原さわやかグループや、下久堅の食を考える会の活動	地場産品を活用した女性グループの活動がある。菓子作りなどもできる。	大原さわやかグループ、下久堅の食を考える会	
文化	ひさかた和紙	地域の伝統産業である「ひさかた和紙」を学んでほしい。歴史を知るとともに1枚の和紙の価値を知ってほしい。	ひさかた和紙保存会	
文化	北原・中組の獅子舞	下虎岩地区では北原と中組で獅子舞の保存活動を行っている。地域の文化の1つであるため是非知ってほしい。		
自然	三石の甌穴(おうけつ)群 [県天然記念物]	小石達が岩を削り甌穴を作り、その後地殻の変動と隆起により地上に出現した。		
自然	嵯峨坂ざぜん草自生地 [市天然記念物]	虎岩の嵯峨坂地区に自生するざぜん草。見頃、3月初旬		
歴史	南原橋の歴史	1870年に初代南原橋が完成。現在は12代目で1975年に竣工		
歴史	知久平城址 [市史跡]	廃城になるまで400年間、この地の政治の中心であった。現在は城などはないが城址保存会が活動を行っている。	知久平城址保存会	
文化	石室・五輪塔(文永寺) [国重要文化財]	弘安6年(1283)癸未12月29日の刻名があり、知久敦幸(あつゆき)62歳の時に南都の石工に造らせたことが記されている。		
文化	鐘楼(しょうろう) [県宝] (文永寺)	弘安2年(1279)の銘を持つ類似型の鐘が小海町にあり、それに近い鎌倉時代後期の頃、文永寺創建当時の製作と推定される。		
歴史	後奈良天皇宸翰女房奉書(しんかんにようぼうほうしよ) [国重要美術品] (文永寺)	紙本墨書(しほんぼくしよ) [太元修法(たいげんしゅほう)] 天皇の考えを女官が書いたもので、独特の字くばりがみられる。		
歴史	後奈良天皇宸翰御懐紙(しんかんみかいし) [国重要美術品] (文永寺)	紙本墨書[詠春色浮水和歌(えいしゅんしよくふすいわか)] 後奈良天皇宸筆の和歌で菊花文の表装の軸である。		
歴史	正親町(おおぎまち)天皇宸翰女房奉書 [国重要美術品] (文永寺)	紙本墨書[太元八譬像(たいげんはつぴぞう)] 正親町天皇から理性院(りしゅういん)の住職に下されたもの。		
歴史	平沢文書 [県宝]	戦国時代から江戸時代にかけて下久堅北原の庄屋平沢家に代々伝わった古文書で、村人の生活の様子や行政担当者の資料が一括で残っており、飯田の中世から近世への推移を解明する上で重要な資料である。		
歴史	水曲柳(すいきょくりゅう)開拓団の碑	1994年建立。水曲柳開拓団は 松島親浩(吉林省日本領事朝鮮課長)の指導により1937年から飯田・下伊那郡の農民並びに北海道実験農家等千余名が旧満州吉林省舒蘭県に入植した自由移民団である。戦前・中、旧満州に全国で最も多くの満蒙開拓団を送出したこの飯田・下伊那地方。その中でも最大の開拓団であった「水曲柳開拓団」。年々風化していくこの満州体験を忘れることなく平和の尊さを語り継いでいかななくてはならない。	水曲柳会	
文化	旧瀧澤医院 [市有形文化財]	1895年に建てられた擬洋風病院。正面の門は馬に乗って出入りできるようになっている。		

上久堅地区

上久堅公民館
TEL 29-7001

分野	主な内容	説明	講師	時期
自然、歴史、文化	上久堅を学ぶ	地域の自然、歴史、文化など各分野について知識のある地区の方が上久堅をもっと好きになろうという思いのもと活動している。地域の先人から学び、上久堅を知り、郷土をもっと好きになってもらいたい。 主な内容：灌漑用水(ため池)、神之峰、知久氏の歴史、南山三十六カ村騒動、上久堅の石仏、上久堅の方言など	上久堅を学ぶ会	通年
文化	事念仏	事の神送りの前日ないしは数日前の夜、子どもたちが太鼓を持って各家一軒、一軒まわり軒先で念仏をあげる。厄病払いの行事。		2月
文化	事の神送り	2月、神輿や後ろ髪を和紙にくるんでしぼりつけた笹竹、旗などをもった行列が地区内をリレーしながら厄病神を集めて村はずれに送り出す。		2月
文化	古城想歌(こじょうそうか)	高森町出身の串原兼臣氏が上久堅の神之峰を想って昭和44年にできた歌。平成24年10月には小学校合唱クラブ員による歌声でCDが作成された。現在でも地区行事の折に小学生が歌声を浩してくれている。村歌と並び、歌い継がれてほしい歌。		通年
自然、歴史	秋葉街道歴史散策	江戸時代に遠州側との物資の流通や文化の伝達等の交流の交通網であった「秋葉街道」。この街道を整備し保存継承に努めている。歴史と自然と併せて学習してもらいたい。	秋葉街道を愛する会	通年
歴史	神之峰城跡 [市史跡]	1200年代、天竜川東の地域を治めた知久氏の居城跡。神之峰山頂(771m)一帯に中心がある、郭と空堀が残る山城。		通年
文化	久堅神社天神社本殿 [市有形文化財]	神之峰城跡の一角にある、1731年につくられた社。祭神は学問の神で知られる菅原道真。さまざまな彫刻が貴重。		通年
歴史	知久氏の歴史	神之峰城を築いた諏訪氏の分流の武家の氏族。鎌倉時代300年くらい栄え、竜東地域をおさめた。		通年
歴史	知久十八ヶ寺	神仏に信仰が厚い知久氏が神之峰周辺に建立した18つの寺。現存しているものは「玉川寺(ぎょくせんじ)」と「興禅寺(こうぜんじ)」のみ。		通年
地域づくり	上久堅郷土歴史館	長谷部平吉氏より寄贈された「長谷部アジア館」を改修し、平成23年4月にリニューアル。滝沢具幸(ともゆき)氏の絵画や北田遺跡出土物をはじめ、上久堅に関係した展示を行っている。		通年
農業	田作り	地区の高齢者の方が中心になって農業支援、北田(きただ)遺跡公園の管理等を行っている。高齢者との共同作業を通して郷土学習をしてもらいたい。	シニアクラブ	4月～11月
農業	小野子にんじん	上久堅地区で昔から作られている「小野子にんじん」。歴史ある長人参の生産を再び活気づかせようと有志が集まり人参生産を始め、商品の開発、販売に取り組んでいる。地域野菜について栽培、収穫、歴史と多岐に渡り学んでもらいたい。	小野子にんじんクラブ	通年
農業	そば栽培	遊休農地解消のため、地元地区の方が中心になってそば栽培、試食会を行っている。栽培、そばが育つ風土について学習してもらいたい。	柏原そばの会	通年
文化	太鼓演奏	地域文化の伝承を担ってもらいたい。	小野子九頭龍(くずりゅう)太鼓	通年
文化	獅子舞、お囃子	地域文化の伝承を担ってもらいたい。	越久保獅子舞保存会	通年

千代地区

千代公民館
TEL 59-2003

分野	主な内容	説明	講師	時期
自然	万古(まんご)溪谷	地域の財産として守られており、千代の一つの大きな名所となっている。自然を体感してもらうとともに、自然を守る取り組みを学習していただきたい。		5月～9月
自然	万古の栃の木 [市天然記念物]	樹齢700年以上になる栃の木。7月には、地元の子どもたちを対象に栃の木を巡るツアーも実施している。		5月～9月
自然	千代のアベマキ [市天然記念物]	樹齢200年以上、樹高16メートル、周囲3.9メートルの落葉高木。飯田市の天然記念物になっている。		通年
自然	千代の化石	約1700万年前の海底が隆起して現れたもの。動物では、ウニ、ヒトデ、カニなど24種類、植物ではヤマモモなど9種類が出ている。現在でも地区内外の小学生在が訪れている。		通年
歴史	千代の松	山伏塚に植えられていた松。昭和36年まであった樹齢300年の松。牛頭観音、馬頭観音があり、牛と馬が同時に祀られているのは珍しい。		通年
農業	よこね田んぼ	地域の棚田として、保全委員会が中心となって地域で守られている。歴史や現在の状況を学習していただくとともに保全活動の一端を担っていただきたい。	よこね田んぼ保全委員会	通年
農業	千代ネギ	信州の伝統野菜の一つである。地区の名前がついた野菜として現在でも守り広める活動が行われている。	千代地区農業振興会議	通年
文化	事の神送り	1586年、松寿庵が創立された頃に始まった。藁で男女の人形を作り、家内安全、厄除け、悪魔退散の願いを込め、道祖神の神様として祀られた。		2月上旬
文化	大将荒神(たいしょうこうじん)	子どもたちによる無病息災を願っての厄除け行事。数珠に天保4年と刻んであり、鉦(かね)と太鼓の囃子によって大きな声で「大将荒神」と3回唱えて数珠を回す。		2月上旬
歴史	千代歴史を語る会	地区の歴史を探求しながら、見識を深める活動を行っている。地区をよく知る会員が多数在籍しており、地区の歴史を学習する場合にはぜひ活用していただきたい。	千代歴史を語る会	通年
歴史	天与清啓(てんよせいけい)	法全寺で出家した和尚。京都の建仁寺より法全寺に来られた。遣明使、雪舟とも関わりが深い人物である。		通年
歴史	大平小洲(おおだいらしょうじゅう)	野池丸野(大平家)の別家で、旧家で大地主であった。大平小洲画伯は渡辺小華(しょうか)に師事し、花鳥画を得意とした。		通年
文化	人形(野池、下村)	野池の舞台は荒廃していたが、平成25年度に修復された。		通年
歴史	法全寺の梵鐘 [市有形文化財]	臨済宗妙心寺(みょうしんじ)派の禅寺で、地区内唯一のお寺にある。梵鐘は室町時代初期のもの。		通年
歴史	千代(米川)の板碑 [市有形文化財]	米川の金田家より出土した。現在は飯田市美術博物館に寄贈され常設展示されている。	飯田市美術博物館	通年
歴史	野池神社	外安賀多命(とあがたのみこと)の終焉の地とされ、奥深い歴史がある。千代の名所の一つであり、過去の歴史から現在に至る過程を学習していただきたい。		通年
文化	御柱	野池神社を舞台に行われる7年に1度のお祭り。地元の子どもたちを中心に木遣り保存会も結成されて行われる。		通年

龍江地区

龍江公民館
TEL 27-3004

分野	主な内容	説明	講師	時期
文化	人形芝居浄瑠璃の伝承 [県選択無形民俗文化財]	今田人形の伝承、地区内外普及、今田人形座への支援を行っている。	今田人形保存会	通年
文化	郷土民謡の伝承	龍峡小唄の指導、伝承を行っている。 『龍峡小唄』 昭和3年に発表された民謡で、天龍峡の自然、南信州の生活が風流に唄い込まれている。南信州ではイベントや盆踊り、地域の運動会、ときには結婚式でも踊られた定番の一曲である。	龍っ子の会	通年
地域づくり	そば	そば打ちの講習、そばの栽培等を指導してくれる。	春日二八会	通年
農業	作物の栽培、収穫	農業体験を指導している。また豆腐作り等もやっている。		通年
地域づくり	郷土料理	五平餅等の郷土料理をつくり、文化祭などの地域イベントに参加して盛り上げている。	こめんばなの会	通年
自然	さくら保全	天竜峡八重桜街道の管理を行っている。また4月に行われているさくら祭りの企画、運営を行っている。	龍江天龍峡桜街道さくら並木愛護会	通年
自然	龍江大屋敷のイワテヤマナシ [市天然記念物]	東北地方原産のナシ科の原種に近いナシと言われている。この木が自生種であればイワテヤマナシの南限であり大変貴重である。		通年
スポーツ	マレットゴルフの普及、場の管理	今田平マレットゴルフ場の管理運営を行っている。マレットゴルフ場は龍江水辺の楽校にあり、年間を通じて地区内外から人が訪れマレットゴルフを楽しんでいる。	龍江マレットゴルフ同好会	通年
観光・文化	天龍峡 [国名勝]	名勝に指定されており、様々な名所がある。中でも龍角峯(りゅうかくほう)は巨岩に字が彫られており対岸の川路からの眺望は素晴らしい。また天龍峡焼も有名である。	『観光』観光課天龍峡事務所	通年
文化	定継寺(じょうけいじ)の雲板 [市有形文化財]	東陽山定継寺。桃井定継の菩提寺として建てられた。開山は南北朝期とも言われ古い。寺の法器であった雲版(食事の合図に叩く鉄の板)は永享2年(1430)の年紀がある。この寺は寺子屋があり現在の小学校の前身のひとつである。		通年
文化	尾林古窯の狛犬(おばやしこようのこまいぬ) [市有形文化財]	尾林地区は古くから陶芸が盛んで、発掘調査もされている。八幡社(尾林神社)に奉納されている狛犬は慶長14年(1609)の刻銘があり、在銘の物では長野県下でもっとも古い。		通年

竜丘地区

竜丘公民館
TEL 26-9303

分野	主な内容	説明	講師	時期
歴史	古墳	竜丘地区は古墳分布密度が高く、多くの古墳が残存し、出土品も多数ある。県の指定文化財になっている古墳もある。地域の特色である古墳は多くの人の手により守られている。	竜丘古墳の会	通年
歴史	御猿堂(おさるどう)古墳 [県史跡]	この古墳からは重要文化財に指定されている画文帯四仏四獣鏡(がもんたいしぶつしじゅうきょう)はじめ刀剣・馬具・玉類などが出土した。	竜丘古墳の会	通年
歴史	馬背塚古墳 [県史跡]	開善寺の裏、国道151号線の近くにあり、2個の横穴式石室を持つ点に特色がある	竜丘古墳の会	通年
歴史	塚原二子塚(つかばらふたごづか)古墳 [市史跡(塚原1号古墳)]	塚原古墳群中の王者である。形象埴輪(けいしょうはにわ)破片が多く採集されて、竜丘小学校等に保管されている。	竜丘古墳の会	通年
教育	丘のみちしるべ	地域住民と小学校の先生が協働で作成したふるさと教材。上記事項や地域の歴史・文化・自然など、様々な内容が掲載されている。		通年
教育	自由画	大正時代に竜丘小学校では自由教育が取り入れられ、木下紫水により自由画教育が行われた。当時描かれた自由画は竜丘小学校に保存されているが、より適切な保存と活用を進めている。	自由画保存顕彰委員会	通年
人物	教育文化に尽くした人々	自由教育関係: 森多平(たべい)、下平芳太郎(よしたろう)、木下紫水(しすい)、岡村二一(にいち) 日曜学校等: 小林洋吉(ようきち)、中田幸(みゆき) 算額: 齊藤保定(やすさだ)		通年
文化	桐林人形かしら	江戸時代後期から明治時代の初期にかけて伊那谷で盛り上がりみせた人形芝居の人形座のひとつ。かしらや多くの衣装が残されている。しかし、上演を記した文書が見つかっておらず、謎の人形座の一つである。	桐林区	通年
伝統行事	初午はだか祭り	2月の最初の午の日に長石寺の観音菩薩に養蚕や馬の安泰を祈った祭り。最近では馬の日に近い日曜日に行われる。祭神である白馬の神輿を男達が裸で担ぎ天竜川の水で身を清める。	初午はだか祭り実行委員会	2月
伝統行事	時又灯ろう流し	飯田の三大祭りの一つ。8月のお盆に天竜川のほとりに祭壇を設け、長石寺に集められた灯ろうを精霊とともに僧の読経に合わせて送る。河原では大規模な煙火が夜空を彩る。	時又灯ろう流し実行委員会他	8月
伝統行事	長野原お日まち	300年以上前から長野原地区に伝わる祭り。1月31日の夜から始めて2月1日の日の出を迎えるまで一夜を明かす。現在は1月最後の日曜日に開催。	長野原区	1~2月
自然・歴史	河川・井水	竜丘地区には様々な河川や井水があり、人々の生活に重要な役割を担っている。特に長野原は水の無い土地であり、先人が血のにじむような努力をし、井水を整備した。		通年

自然・歴史	竜丘電気利用組合 (日本初の電気利用組合)	明治40年頃、旧竜丘村では、地区内で電気をおこして各家庭で使おうという研究が始まり、大正初期には日本で最初の電気利用組合が設立されました。大正3年に工事に着工、翌4年には新川発電所が完成しました。その後、電気需要の高まりに合わせて、大正11年には久米川にも発電所を新設しました。昭和17年の通常総会の事業報告によると、電灯は常夜灯や養蚕灯などで総取付数5,366灯、電力は製糸ほか各種工業用に利用され電動機取付台数36台110馬力、収支状況も極めて良好で余剰金をあげつつ周囲の電力会社より安い供給価格でした。しかし、昭和16年の国の配電統制令施行により、昭和18年には中部配電株式会社事業を譲り渡して組合は解散しています。	竜丘史学会	通年
自然	ギフチョウ	氷河時代から生き残っているといわれるギフチョウが生息している。しかし、絶滅が危惧される。保護活動が積極的に進められている。	飯田昆虫友の会	
文化	開善寺	伊那谷屈指の古刹(こさつ)。最初の門には山岡鉄舟の書いた「靈明窟」の掲額があり、山門は国の重要文化財、鐘楼は国の重要美術品に認定されている。また、全国に八つしかない八相図の一つ「絹本着色八相涅槃図」がある。		通年
文化	開善寺山門(開善寺) [国重要文化財]	開善寺は清拙正澄が開山の臨済宗の古刹で、諸山十刹と寺格が高い。吹放ちの円柱列の美しい建築である。		通年
文化	絹本着色八相涅槃(けんぼんちやくしよくはっそうねはんず)[国重要文化財](開善寺)	唐の呉道子(ごどうし)筆と伝えられる。釈迦の涅槃前後(ねはんぜんご)の八つの物語を一幅に描き表している		通年
文化	画文帯四仏四獣鏡(がもんたいしぶつじゅうきょう)[国重要文化財]	県史跡御猿堂(おさるどう)古墳より出土したもの。六朝時代の舶来鏡で、製作年代は3世紀頃と考えられる。		通年
文化	木造大鑑禪師(だいかんぜんじ)坐像 [県宝] (開善寺)	清拙正澄(せいせつせいちょう)(大鑑禪師)の中世にさかのぼる頂相彫像は本像のみであり、かつその出来栄も優れており、歴史的にも造形的にもその価値は高い。県内の同種頂相彫刻は4例知られるが、像主の重要性、出来栄いずれもそれらに匹敵するものである。		通年
歴史	鈴岡城址 [県史跡]	長野県史跡(昭和46年指定)毛賀沢の谷を隔てて松尾城址と相対。ほぼ昔の姿で保存されている。駄科地区民により鈴岡公園を開園(明治45年)	駄科区	通年
歴史・文化	算額・俳諧額(はいかいがく)・絵馬	竜丘地区各区の神社に様々な額が掲額されている。長野原金山神社や長石寺には算額が残されている。	各地区宮総代	通年
文化	長石寺(ちょうせきじ)本堂 [市有形文化財]	母屋との繋ぎには、立川(たてかわ)流の得意とする龍の彫刻が、手錠みには牡丹の籠彫りが施されている。立川和四郎の直系が請け負った規模の大きな建築物としては最後期の作品と考えられている。		通年

川路地区

川路公民館
TEL 27-2001

分野	主な内容	説明	講師	時期
歴史	天龍峡 [国名勝]	景勝地として知られる天龍峡には、十勝(じゅっしょう)を始めとする文化的、歴史的な土壌が多分に育まれてきた経緯がある。単なる景勝地・観光地ではなく、それを実現してきた地域の先人の想いを学んで欲しい。	天龍峡観光協会	通年
歴史	歴史文化セミナー	公民館で、変わりゆく川路の姿を保存していく取り組みをしている団体。道路や湧水、農民美術、石仏、昔話などについて調べている。	歴史文化セミナー	通年
歴史	川路碑林(ひりん)	川路神社の入り口には、川路地区の歴史の変遷が見て取れる数々の石碑が集められている。		通年
文化	村田屋	屋号を百華園(ひゃっかえん)といい、大学教授や医者を出す家系。天龍峡を天下の名勝にしようと尽力し十勝制定など多大な功績を残した関島松泉(しょうせん)氏や、天龍峡夏期大学創設の立役者の一人で成蹊大学教授の関島久雄氏もこの家から出ている。屋号の百華園は、医者として庭で沢山の薬草を育てていたことからついたと言う。		通年
歴史	市川団十郎の歌舞伎舞台	現在川路公民館が建っている場所にはかつて地歌舞伎の舞台があった。江戸時代に質素儉約の風潮があった江戸から出て地方巡業を行っていた七代目市川団十郎一座がこの地にて歌舞伎を舞ったという歴史があり、琴平神社にはその際団十郎からもらった奉納額がある(現在は川路公民館に所蔵)。また、この縁で、平成3年の夏期大学には十二代目市川団十郎が来峡し、講演している。		通年
文化	川路祇園祭り	川路が各区で取り組む伝統のお祭り。子どもたちは基本的にお囃子担当。区によって形が異なる。	各区	7月
自然	竹宵	竹を加工してランプ作品をつくる。他地区と協働で市内に竹宵の輪を広めており、川路でも年越しの竹宵などが恒例の取り組みとして定着してきている。	川路竹宵の会	5~11月
産業	養蚕	かつて日本三大桑園として名を馳せた川路では、蚕からつくる絹の生産が主要産業だった。今養蚕を続けている世帯は数件となってしまったが、昔の名残として川路地区内に養蚕をしていた家屋が点在する。		通年
産業	白雪豆腐	川路5区にあった手作り豆腐店。昔は豆腐売りの店主が、ラッパを鳴らしながら地区内を回っていた。ラッパの音を聞いてザルを持ち主婦が道に出てくる光景や、家の前にザルと代金をおいておき、豆腐をおいていってもらった文化など、昔を懐かしむ声は今なお地区内で聞かれる。		通年
郷土料理	蕎麦打ち	天龍峡そば祭り等で蕎麦打ちをし振る舞う活動をしている。川路地区の有志が出資しあって団体を作り、メニューを自分たちで考えるなどの取り組みをしている。	そば普及組合	6~10月
自然	ササユリ	県指定の保護植物であるササユリ。かつては川路一帯の山々に群生し、お年寄りがお墓参りに行く際に摘んで、両手に抱えて持っていたというほど。現在は川路小学校学友林にて見ることができる。		
自然	川路のネズミサシ [県天然記念物]	川路七区にある巨木。昭和43年3月、県指定の天然記念物に指定。樹齢は1000年以上と推定され、その大きさは全国第2位の巨木とされる。		通年
文化	愛郷賦(あいきょうのふ)	川路に伝わる、郷土振興を目指しつくられた歌。作曲は郷土出身の牧内武司氏。		通年
文化	正月飾りづくり講習	地区の老人クラブ等に講師となってもらい、伝統的な正月飾りを子ども達に伝える取り組み。	4・7・8分館	12月

三穂地区

三穂公民館
TEL 27-2032

分野	主な内容	説明	講師	時期
産業	干柿づくり	地区内全域で干柿作りが盛ん。10月中旬からの収穫は家族総出で行われる。その後柿むき、吊るし等の作業を経て、12月の初旬から年明けまで出荷作業が行われる。軒先に吊るされた柿すだれは有名だが、現在は衛生管理の徹底が求められ、遮光ネットがかけられることも多い。また、柿剥き機も同様の理由で出荷用には使えないものもあり、更新による農家の負担増などで伝統産業の継承に影響がないか心配されるところである。	農協、園協、ほか地区内農家	10月～1月
歴史	立石柿	三穂地区では古くから干柿作りが盛んで、江戸時代には徳川将軍への献上品としても用いられた。江戸では干柿の事を「たていし」と呼んでいたとのこと。立石寺には当時、干柿を天竜川を使って運んだ様子を描いた絵馬があり、立石全域で柿が栽培されていた様子が描かれている。また、現在のつるし柿ではなく、竹の串に刺して干した串柿が生産されていた。立石柿は現在の市田柿とは柿の種類が異なり、立石地区には木がまだ残っている。	立石寺 まちづくり委員会	通年
文化	柿むき唄	干柿作りの柿むきの時に歌った歌、昔は手作業であったため、その際に歌った。今は歌える人がほとんどいないが、村史に歌詞が載っており、公民館にテープがある。下條村などでも歌われていた。昼間収穫した柿を山のように積み上げ、夜間に周りを家族で囲んで作業を行い、頂上には餅などを載せた皿を置き、沢山・早くむいた人の方に流れてくるようにするなどして楽しみながら作業したと言われている。当時の様子を描いた絵が、公民館大会議室にかけられている。		通年
文化	さば寿司 [県無形民俗文化財]	祭りやお祝いの際に多くの家庭で作られる伝統料理。10月に行われる伊豆木八幡宮の例大祭は、さば寿司が奉納されることから、別名「さば寿司まつり」とも呼ばれている。起源はこの地域を治めていた小笠原氏と言われ、普段は鮎の押しずしを、お祭りの際にはさば寿司を作ったと言われている。奉納されるさば寿司はさばを丸々一本使ったものだが、家庭で作られる物は薄く切ったさばのすびてを、ご飯の上に並べたり、混ぜ込んだりしたもの。	古川商店 京ちゃん工房 地区内各家庭	通年
歴史	旧小笠原家書院 [国重要文化財]	伊豆木小笠原家の屋敷の一部を、小笠原氏の子孫が明治時代になり住宅として使用していたもの。建設年は1624年頃と言われ、390年が経過している。旗本の住宅としては現存する唯一のもの。住宅としては日本で最も早く昭和27年に国の重要文化財に指定された。現在は飯田市の所有だが、三穂まちづくり委員会が指定管理を受け、管理業務などを行っている。	三穂まちづくり委員会	通年
文化	小笠原資料館	旧小笠原家書院と同じ敷地にあり、小笠原家に関する資料を展示するために、平成11年建築された。建物はカーブした細長い形をしており、2010年、建築界のノーベル賞とも言われるブリッカー賞を受賞した建築家ユニットSANAAの設計によるもの。メンバーの妹島和世(せじまかずよ)さんは小笠原家由縁の人。建物を見に多くの外国人客も訪れる。三穂まちづくり委員会が指定管理を受け、管理業務などを行っている。	三穂まちづくり委員会	通年

歴史	伊豆木小笠原氏	伊豆木小笠原氏は徳川家康の家臣。初代、長巨(ながおん)が松尾小笠原家から分家、埼玉県本庄市を経て、関ヶ原の戦いで功績が認められ伊豆木に1000石を拝領、居を構えた。以来11代にわたって伊豆木を治める。幕末の戊辰戦争では討幕派に加わり、明治以降も取り潰しにならず農した。		通年
歴史	近藤氏	江戸時代末期に立石地区を支配していた旗本、陣屋は現在の山本地区にあった。飯田市南部～下條村～阿南町にかけての天竜川沿いの地域を所領。		通年
歴史	美濃高須藩(みのたかすはん)	江戸時代末期に下瀬地区を支配していた藩、陣屋は岐阜県海津市。下伊那郡内の42村を支配していた。幕末の会津藩主松平容保はこの藩の出身。		通年
自然	伊豆木七洞八垣外	伊豆木には多くの洞(沢沿いの地形)があり、そこで人々が暮らしを営んできたことから、その地形を表してこう呼ぶ。三穂地区のほとんどの家庭が持っている屋号にも「～垣外」というものがいくつもある。		通年
自然	下瀬原(しもぜっばら)	下瀬にある阿智川の河岸段丘上の平地のこと。昔から水の便の悪い土地であったため、果樹園としての利用が多い。		通年
産業	果樹園	三穂地区では柿をはじめとして全域で果樹栽培が盛んであるが、特に下瀬地区の原では果樹園が多い。りんご、もも、などが栽培され、観光農園もあり、りんご狩りなどに多くの人が訪れる。		
地域づくり	西山(財産区)	第8組合から立石地区にかけての西側山中にある、三穂地区の共有山林。林業が盛んな時代には、木材を売り、村の財政の一助になっていたと思われる。現在はまつたけ山としての活用を推進しており。財産区議会の中に菌茸委員会が設けられているほか、年に数回、地区の財産区議員を中心に、各組合ごと住民が参加して間伐やごかきなどの作業を全住民が分担して行っている。きのこの時期は止め山となり入山には券が必要。ほかにも、立石地区には区独自の所有林もある。	三穂地区財産区	通年
歴史	禁酒	世界恐慌などによる生糸の価格の暴落により疲弊した村の財政を立て直すため、昭和7年、村全体で禁酒宣言をして経済厚生事業を行い、成果を上げた。		通年
歴史	伊豆木人形	江戸時代後期に小笠原の殿様が民衆に頭を分け与えたのが始まりとされている。その後、頭は保存されていたものの、上演は大正時代前半を最後に途絶えていた。平成19年、復活させたいという機運が地区内で高まり、三穂小学校人形劇クラブを母体に、地域の人形劇クラブとして伊豆木人形クラブが発足した。クラブには地元の小中学生12名が所属し、毎月2回公民館において活動している。人形劇フェスタ、成人式、文化祭、宅老所等で上演。現在使っている頭は新調したもので、古い頭は小笠原資料館に収蔵されている。		通年
歴史	立石祇園祭り	毎年7月14日付近に行われる津島神社のお祭り。津島様は雄杉の根元に祭られており、疫病除けの祭りとしてはじまった。小学生が引く屋台巡行のほか、獅子舞、奉納煙火が行われる。このうち獅子舞は飯田市に多い屋台獅子ではなく、大神楽の流れをくむ神楽獅子であるが、演目のいくつかは現在途絶えてしまっている。祇園祭りでは、子ども達の獅子舞披露もあり、伝統を受け継ごうとする取組みが行われている。	立石区	7月

地域づくり	あじさい会 (女性グループ)	農産加工やボランティア活動などを行う女性グループ。農産加工としては五平餅作りや味噌造り、万次郎かぼちゃの栽培などを行っている。真陽地区との交流や夏祭り、文化祭で販売する五平餅をお願いしている。また、冬季には保育園での味噌造りも指導。第6組合の県道交差点の花壇はこのグループによって植えられ、管理されている。		通年
地域づくり	はな筏(いかだ)の会 (生活改善グループ)	立石地区の女性を中心に組織された農産加工などを行う女性グループ。以前は公民館がサポートし、農村の生活を改善することを目的としたグループとして活動しており、果樹の選定講習会や、昭和50年代にはヨーロッパの農村を視察するなど、活動を続けてきた。現在も五平餅作りや、文化祭で販売する手作りこんにやくの加工などの活動を行っている。		通年
地域づくり	真陽(しんよう)地区との交流	阪神大震災のボランティアに当時の公民館主事が行ったことがきっかけ。平成8年に真陽地区の方を講師に防災セミナーを行ったことから、交流が始まり、毎年5月に真陽を訪問し真陽フェスティバルへ参加、2月の文化祭にお越しいただいている。以前は小学校同士での交流や、修学旅行での真陽地区訪問、冬は小学生のスキー交流などを行っていたが、現在は行われていない。	三穂公民館	5月・2月
歴史	三穂村営電気	三穂は当時の配電会社の区域から外れていたことから、地元で電気組合を立ち上げる話が持ち上がり、大正8年から計画され、村民全世帯の寄付などの協力により、大正10年に立石の阿智川に発電所が完成した。しかし、直後に別の電気事業者が上流に発電所を建設する計画が持ち上がり、交渉の結果、そこで発電した電気を無償供給できることとなった。以降第2次世界大戦の電力統制により権利を剥奪されるまで継続。		通年
歴史	立石条里制(じょうりせい)水田	南向きの斜面が多く、比較的温暖な立石地区には、古くから集落があり、稲作がおこなわれていた。今でも条里制水田の名残が残っている。		通年
産業	堤	農業用の堤、夜明し山周辺に複数みられる		通年
文化	正宗得三郎(まさむねとくさぶろう)	岡山県出身の洋画家。戦時中、三穂に疎開しており、3年間の疎開中に三穂の風景などを描いた多くの作品を制作した。地区内には現在も作品を所有している家がある	飯田市美術博物館	通年
歴史	青年会活動	現在は活動していないが、かつては政治、文化、経済などの面で活発に活動し、その中から多くの地域を支える人材が生まれてきた。当時発行されていた機関誌が公民館に残っている。		通年
防災	消防団第八分団	自動車(伊豆木)、数田、立石(下瀬)の3班で編成される消防団、35歳までの男女の団員が所属し、防火、防犯、防災等の活動を行っている。消防技術を競う大会では、団員数が少ない中、常に上位の成績をおさめており、過去に長野県の大会で優勝したこともある。近年は、若者が減る中で団員確保等に苦労している面も見られる。		通年
防災	地すべり対策	水晶山の周辺を中心に、地すべり地域に指定されている区域があり、県の事業として地すべり対策工事が行われている。北伊豆木、中伊豆木、立石で対策委員会を組んで活動	三穂自治振興センター 下伊那地方事務所農地整備課	通年
地域づくり	3世代居住	一世帯当たりの人数が市内で一番多い。三穂に家を建てて帰ってくる若い家族も多い。飯田市やまちづくり委員会でも、地域振興住宅建設など、若者が帰ってくる地域に向けた取り組みを行っている。	三穂まちづくり委員会	通年

福祉	下瀬しあわせ村	阿南町社会福祉協議会が運営する福祉施設		通年
福祉	三穂宅老所まめだに	NPOあやめの運営する老人福祉施設		通年
自然	雄杉・雌杉 [県天然記念物]	長野県指定天然記念物に指定されている。樹高40メートル、樹齢1000年の巨木。雌杉は宮嶋英紀さんの個人所有。	立石区	通年
自然	山野草	モウセンゴケ、カタクリ、ササユリなど貴重な植物がみられる。		通年
自然	立石寺前のシダレザクラ	胸高周囲3.5m、樹高8mの老木ではあるが、春先には美しい花をつける。		春頃
歴史	立石寺	真言宗のお寺で山号は千頭山。創立は平安時代後期、857年とされる。本尊は11面観音菩薩で国の重要美術品。また、梵鐘は市有形文化財に指定されている。		通年
歴史	興徳寺	臨済宗妙心寺派のお寺で山号(さんごう)は崇福山(そうふくざん)。創立は江戸時代初期で、開祖は伊豆木小笠原家の初代長巨の妻であった興徳院と言われている。先々代住職のころから習字教室を行っている。		通年
歴史	伊豆木天満宮神楽殿 [市有形文化財]	明治11年(1879)に再建された舞台で、人形舞台と歌舞伎舞台を併用して利用できるよう建てられている。		通年
歴史	厚生館(こうせいかん)	現在の公民館建設以前に公民館が入っていた建物、三穂に公民館が設置される以前の昭和14年に完成し、村人の生活を豊かにするための施設にという願いを込め「厚生館」という名称となった。現在の郵便局の位置にあった。		通年

山本地区

山本公民館
TEL 25-2001

分野	主な内容	説明	講師	時期
建造物	杵原(きねはら)学校	平成17年に国有形登録文化財として登録された山本のシンボリック建造物である。今では、山本地域づくり委員会が指定管理を受け、杵原学校応援団により各種行事を開催している。	杵原学校応援団	通年
建造物	山本地区分教場(久米分教場・箱川文教場)	廃校となった飯田市山本小学校久米・箱川分教場であり、久米分教場は記念誌編集委員会により記念誌も作成されている。	久米区・箱川区	通年
文化	七久里神社裸祭り	七久里神社裸祭りは、花火好きな伊那谷にあって独特な祭りである。五穀豊穡や無病息災を産土神に願い、そして地域の絆を固めてきた祭りである。	山本区	
文化	山本地区獅子舞(竹佐獅子舞・南平獅子舞)	山本南平獅子舞保存会は430有余年の伝統を正確に伝える獅子舞とし保存活動に励んで居る。幌の舞、鈴の舞、嵐の舞の三部に構成され優雅な舞の中にヒョットコの踊る所作に人気があり、飯田市を代表しフランスで獅子舞を公演、日本の獅子舞を広く世界に発信した。台湾よりの日本観光団に四夜に互り公演し、台日友好の一端を担った物と自負している。	竹佐獅子舞保存会・南平獅子舞保存会	通年
文化	山本地区太鼓(大塚太鼓・牛山太鼓)	山本夏祭りや山本地区成人式にて披露をされている。牛山太鼓は大塚太鼓から派生したものであり、元は一緒の団体である。現在は、山本小学校の3学年が総合の時間で学習をしている。	大塚太鼓・牛山太鼓(命響館)	通年
自然	高鳥屋(たかどや)山・城山・二ツ山・水晶山	山本は山に囲まれており、山本の地名の由来も『やまのふもと』で山本という説もある。それぞれの山に歴史もある。		通年
自然	ハナノキ [県天然記念物]	ハナノキは自生地での個体数が減少し、絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。ハナノキは雌雄異株であるので、雄木と雌木の開花個体が近くに存在しないと種子を作ることができない。長野県の自生地の大部分は長野県南部の飯田市山本と隣の下伊那郡阿智村の4ヶ所に集中している。	はなのき友の会	
建造物・美術品	久米光明寺 ※阿弥陀釈迦如来坐像 ※薬師如来坐像	国重要文化財『阿弥陀釈迦如来坐像』及び国重要美術品『薬師如来坐像』を所蔵する。	光明寺氏子	通年
歴史	竹佐中原遺跡	竹佐中原遺跡から発掘された石器の調査結果によると、約3万年～5万年前と推定され、日本では最古級のものだということです。		通年
歴史	白隠石(はくいんせき) [市史跡]	宝暦7年(1757年)この地方に疫病が流行した時、73歳の白隠禅師は上川路の開善寺にしばらく足をとどめていた。それを聞いた竹佐の村人は白隠に揮毫(きごう)をお願いして、疫病の退散を祈願した。豪放(ごうほう)・生氣滂刺(しょうきはつらつ)・慈悲の気持ちが込められた文字は白隠禅師の人柄を表している。地元では白隠講をつくり、家内安全・無病息災・子孫繁栄を祈願し、春と秋にお祭りをしながら大切に守り続けている。		通年

伊賀良地区

伊賀良公民館
TEL 25-7311

分野	主な内容	説明	講師	時期
地域づくり	伊賀良地区 第二次基本構想	伊賀良地区の歩みと目指す将来像 「緑輝き・人と文化が行き交うまち いがら」 第1章～第5章に伊賀良のことが網羅されている。	伊賀良まちづくり協議 会	
文化	佐竹蓬平(ほうへい)	佐竹蓬平は寛延3年(1750年)に大瀬木に生まれ、画家であったと共に、篆刻(てんこく)・漢詩にも長じていた。時流を追わず、世俗に超然としての一生であった。享年58歳。	佐竹蓬平・鈴木芙蓉 顕彰会	
文化	鈴木芙蓉(ふよう)	鈴木芙蓉は宝暦2年(1752年)に北方に生まれ、画家であると共に、漢学者でもあった。阿波徳島の蜂須賀候(はちすかこう)に絵師として召し抱えられ、65歳で没した。	佐竹蓬平・鈴木芙蓉 顕彰会	
人物	大江磯吉 (教育者)	大江磯吉は島崎藤村の「破戒」の主人公の師のモデルといわれ、墓は下殿岡にある。立派な教育者であったが、35歳で没している。	伊賀良公民館	
歴史	四条金吾(しじょうきんご)	鎌倉時代、伊賀良の庄の地頭代であった四条金吾は、日蓮宗の信者として深く上人に帰依し、信仰が厚く、贈り物をした。	伊賀良公民館	
自然	笠松山	笠松山は伊賀良に住む人々にとって、忘れ得ない山である。四季折々に織りなす色模様は美しい。登山道には三十三観音がある。	北方古老に聞く会	
自然	兀岳(はげだけ)山	伊賀良の山で最も高い山は兀岳で、近くを流れる押の沢山系の広い共有林は、入会権をめぐって幾多の変遷があった。	伊賀良公民館	
自然	かやの木 (市の天然記念物指定)	弘法大師から授かった数珠玉から生まれたといわれ、樹齢三百余年の大木で、旭ヶ丘中学校のシンボルでもある。	伊賀良公民館	
自然	なんじゃもんじゃの木	三日市場のなんじゃもんじゃの木は、高々とそびえ立っている。昔、弘法大師が立てた箸が育ったものという伝説もある。	伊賀良公民館	
樹木	公民館敷地内の樹木	伊賀良公民館敷地内には、記念樹やたくさんの樹木が植えられている。各々の木には樹木名・由来を記した看板を取付けてある。	伊賀良公民館	通年
歴史	鳩打(はとうち)峠	広い山林を持つ伊賀良にとって、この資源を運び出す道路は欠くことが出来ない。鳩打峠にトンネルが出来た喜びはとでも大きかった。	伊賀良公民館	
井水	新井川	新井川は松川から取入れ、北方から三日市場まで及んでいる。この修復に多くの功労のあった山本長佐衛門(ちょうざえもん)の領徳碑(しょうとくひ)がある。	伊賀良公民館	
井水	大井川	伊賀良井(大井川)は松川の水を取り入れ、北方、殿岡を通り時又までの長大な灌漑用水である。800年の歴史があるといわれている。	伊賀良公民館	
河川	茂都計川(もつけがわ)	茂都計川は大瀬木から中村に流れ、多くの井筋をもち、訴願をした水論も多いが、それだけ人々の暮らしを支えてきた。	伊賀良公民館	
歴史	大堤	三日市場の大堤は、安政4年に造られ、昭和16年に約4倍の1.6ヘクタールとなり、米作りに貢献している。	伊賀良公民館	
自然	梅ヶ久保公園	梅ヶ久保公園には、社殿が全て石造りの招魂社(しょうこんしゃ)がある。近くに山麓を走る遊歩道があり、眺めも良く自然も豊かで楽しめる。	伊賀良公民館	

施設	運動公園	飯田運動公園には、平成元年に県営野球場が完成したのをはじめとして、県民の体位・体力向上の施設がいろいろある。	伊賀良公民館	
交通	飯田インター	中央自動車道の飯田インターは、飯田市の玄関ともいえる。市の木「りんご」を植えたのは、飯田青年農業者会議の人達であった。	伊賀良公民館	
その他	沢城湖	飯田高原保養地の沢城湖は、米作りのため温水溜池として造られた。冬場はスケート場として賑わったが、今、周辺は別荘地となっている。	伊賀良公民館	
書籍	伊賀良村史	昭和48年に発行され、伊賀良の歴史が網羅されている。	伊賀良村史刊行会	
書籍	村の新聞縮刷版	昭和23年6月1日～昭和36年7月25日の記録。(昭和53年3月30日発刊)	「村の新聞」縮刷版発行委員会	
書籍	公民館報いがら 縮刷版	第1号～第100号の縮刷版。昭和45年7月1日～平成元年1月31日までの記録。(平成4年1月15日発刊)	公民館縮刷版発行委員会	
書籍	公民館報いがら 縮刷版	第101号～第209号の縮刷版。平成元年3月31日～平成19年3月31日までの記録。(平成20年3月31日発刊)	公民館縮刷版発行委員会	
書籍	伊賀良の民俗(1)	民間信仰・年中行事・冠婚葬祭・伊賀良の暮らし・伊賀良に残る昔話・伊賀良に残る句碑をまとめたもの。(2001年8月30日発刊)	伊賀良公民館	
書籍	伊賀良の民俗(2) 伊賀良の石造文化財	石造文化財が各区ごとにまとめられている。(2006年3月発刊)	伊賀良公民館	
書籍	伊賀良の民俗(3) 伊賀良の地名	伊賀良の地名が各区ごとにまとめられている。(2010年9月25日発刊)	伊賀良公民館	
書籍	伊賀良村青年團史	創立は大正9年で、その後昭和15年までの21年史が記されている。	伊賀良公民館	
書籍	その他	矢坂神社・増泉寺・木曾亀の祈り等(平田正宏さん寄贈)	伊賀良公民館	
伝統芸能	獅子舞	上殿岡、下殿岡、北方、上中村には、それぞれ獅子舞が保存・伝承されており、春秋の神社祭りに奉納される。その他、様々な場面で披露される。	上殿岡獅子舞保存会 下殿岡獅子舞保存会 北方獅子舞保存会 上中村お囃子保存会	各行事
歴史・文化	猫舞い	猫が着物を着て舞いをしたという伝説もあり、下中村には地名(小字)も残っている。	伊賀良公民館	
文化	伊賀良音頭	昭和23年5月に歌詞を募集。8月にお盆の納涼会にて発表。久保田創二氏が作曲。踊りの振付は大瀬木の代田氏(元代田写真館)による。	北方区	
太鼓	森友太鼓 鼓響新生殿岡愛郷太鼓	大森地区と下殿岡地区の有志の皆さんによる太鼓の演奏。様々な場面で披露される。	森友太鼓 鼓響新生殿岡愛郷太鼓	各行事
歴史・文化	伊賀良小学校校歌	伊賀良小学校の校歌の作詞者、福沢青藍氏のことにはじまり、歌詞に込められた想いや内容・歴史を学ぶ。	伊賀良を学ぼう～歴史～	
社会奉仕活動	地区内ボランティア	伊賀良地区には、ボランティアグループという団体があり、地区内の介護施設への奉仕活動や、独居老人との交流や支援などを行っている。その始まった経緯や思いを知ってもらいたい。	ボランティアグループ	通年
美術品	美術品の数々	伊賀良公民館の講堂・ロビーには寄贈された美術の大作が飾られ、ミニ美術館のようである。	伊賀良公民館	通年
歴史	旭ヶ丘中学校	伊賀良中学校と山本中学校を廃校して、昭和60年に統合中学校として開校し「旭ヶ丘」と名付けられた。	伊賀良公民館	

歴史	伊賀良小学校	伊賀良小学校は明治19年に、それまでであった四校[(知止)・育良(いくら)・里仁(りじん)・志勤(しごん))を統合して、現在の場所に開校された。当時の生徒数は532人と記されている。	伊賀良公民館	
歴史	伊賀良の庄	荘園の一つとして伊賀良の庄が伝えられている。荘園とは貴族やお寺・神社の私的領有地のことで、飯田の松川以南、天龍川の以西と考えられている。	伊賀良公民館	
歴史・文化	佐倉神社	佐倉様には昭和7年に勧請(かんじん)された佐倉神社がある。下総国(千葉県)佐倉藩堀田氏の、農民に遇酷な政策を将軍家綱に直訴して、磔(つぶて)の刑に処せられた佐倉宗吾(さくらそうご)の霊神が祀られている。桜の名所としても、見晴らしの良さも兼ね備えている。	伊賀良公民館	
歴史・文化	熊野神社	大瀬木熊野社は、大杉の木立の中にあり、熊野三社大権現を祀り、御神体は木造三体で珍しい。坂田亀吉の彫刻や扇まつり(火まつり)が特徴である。別棟に廻り舞台が残っている。	伊賀良公民館	
歴史・文化	矢坂社	大瀬木の矢坂社には建御名方命(たけみなかたのみこと)の木造の御神体があり、境内には廻り舞台のある共修社の建物がある。	伊賀良公民館	
歴史・文化	育良神社	育良神社の社名を名乗るようになったのは、嘉永5年(1852年)といわれ、中馬の絵は江戸時代のものとして、高く評価されている。	伊賀良公民館	
歴史・文化	中村八幡社	中村の八幡社は享禄4年(1531年)に再建されたという。近くに宮川という井筋があり、付近の水田が神領であったあかしといわれる。	伊賀良公民館	
歴史・文化	奥位(おくい)神社	三日市場の奥位社は、養老元年(717年)の勧請と伝えられる。境内には5社のほか、連合氏神の社殿もある。	伊賀良公民館	
歴史・文化	下殿八幡社	下殿岡の八幡社は明治5年に村社となり、春秋の神社祭には地元の少女たちが巫女姿で「浦安の舞」など、たおやかな舞を奉納する。	伊賀良公民館	
歴史・文化	神明(しんめい)社	上殿岡の神明社は伊勢神宮より勧請(かんじん)された。獅子舞も古くから伝えられ、最近は国・県の応援もあって益々活気づいている。	伊賀良公民館	
歴史・文化	長清寺	長清寺は京都花園妙心寺に属し、寺の開基は文治3年(1187年)という。鐘樓の鐘の音は、人々に安らぎを覚えさせられる。	伊賀良公民館	
歴史・文化	増泉(ぞうせん)寺	大瀬木の増泉寺は慶長年間の開基といわれている。境内に薬師堂がある。明治の初期に寺小屋が開かれ、子弟の教育が行われた。後に里仁学校となる。	伊賀良公民館	
歴史・文化	円通(えんつう)寺	円通寺は天正16年(1588年)に飯田大雄寺の隠居所として開かれ、後に庄屋により、現在の地に村の寺として再興された。	伊賀良公民館	
歴史・文化	真慶(しんけい)寺	北方の真慶寺は臨済宗の寺であり、開基以来幾度か移転している。元真慶寺の跡地には五輪の塔が残っている。	伊賀良公民館	
歴史・文化	惣教寺	中村朝臣の惣教寺は飯田峯高寺の末寺として、慶安元年(1648年)に建てられた。戦争末期から一時期は、作家の森田草平が住んでいた。	伊賀良公民館	
歴史・文化	観音堂	観音堂は中村の中山、大瀬木の宮下と小竹にあり、それぞれ伊那西国の10・11・12番の札所である。	伊賀良公民館	

歴史・文化	庚申塔(こうしんとう)	三日市場の薬師寺の脇の7つの庚申塔から、370年程の歴史がうかがえる。今でも講の続いている地域がある。	伊賀良公民館	
歴史・文化	津島様	津島神社は中村と大瀬木にあり、牛頭王(ごずおう)を祀る。中村の津島様は1786年の勧請といわれ、毎年7月中旬に古獅子の舞いを奉納し、祭りが行われる。祇園祭ともいう。	伊賀良公民館	
文化	道祖神	上殿岡にある双体道祖神は道行姿で顔立ちの麗しさと姿が美しく、気品があることで知られている。	伊賀良公民館	
歴史・文化	ぼた餅地蔵	久米街道の三日市場地籍にあるぼたもち地蔵は、旅から帰った人々が、無事を祝ってぼた餅を供えたという。	伊賀良公民館	
歴史・文化	いぼ地蔵	大瀬木昭和の田中地籍にある。紙でいぼをこすり、その紙をびんかの木に結び付けて願をかけると、いぼが癒ったと伝えられている。	伊賀良公民館	
歴史・文化	磯丸の碑	ニツ山は恨みの山という言葉えを鎮めようと、遠く三河(愛知県)の糟谷磯丸(かすやいそまる)という歌人の歌碑を建てた。	伊賀良公民館	
歴史	久米街道	久米街道は、伊那街道より古い街道とされ、三州街道が開かれるまでは、人の行き来は無論、荷駄(にだ)も多かった。	伊賀良公民館	
歴史	十二薬師	札所として残っている薬師堂は3ヶ所。三日市場と上殿岡、それに北方野池にある。伊那12薬師の5・6・7番である。	伊賀良公民館	

鼎地区

鼎公民館
TEL 22-1284

分野	主な内容	説明	講師	時期
歴史	鼎の由来	明治8年、山村・名古熊村・一色(いっしき)村の3村が合併して鼎となった。その名の由来は、ときの校長、渡辺八郎先生の選字命名といわれています。	鼎の歴史を学ぶ会など	通年
地域づくり	住民活動	古くから青年団や婦人会など住民運動が盛んな地域であり、ものづくり産業と住民活動がリンクして成長してきた。また鼎勤労協、鼎商工会なども活動が活発で、全国にもその名を馳せていた。また、現在は公民館10分館の活動も盛んに行われています。	鼎の歴史を学ぶ会など	通年
文化	獅子舞	地域の伝統として残る獅子舞。無病息災、五穀豊穡などを願う。現在は7地区にある。(実際には獅子頭は8地区にあり)地域の子供たちにはぜひ後世に継承していつてもらいたい。	(代表)獅子舞連合保存会など	
文化・芸術	画家「須山計一(すやまけいいち)」	鼎地区出身の画家、須山計一さん。プロレタリア美術運動に深く関わった人物。風景画を始め風刺漫画などが有名。一部、手塚アニメにも関わりがあるようです。その須山計一美術館が鼎公民館の2階にあることをご存知でしょうか。	飯田市美術博物館など	通年
防災	36災害	昭和36年6月に起きた集中豪雨による被害。野底川が氾濫し、土石流、鉄砲水が東中央通りや城東地区、西鼎を襲った。鼎では死者7名を出すなど、大きな傷跡を残した悲しい歴史がある。	鼎の歴史を学ぶ会など	通年
歴史	～地域産業の変遷など～	鼎は養蚕が盛んな地域であり、時代と共に桑畑から水田、果樹、そして道路交通網の整備による住宅、アパート、大型商業施設建設など、市街地化へと変貌しています。	※鼎町史、公民館報縮刷版、鼎上山区史なども参考	通年
産業	養蚕	養蚕の盛んな地域であり、地域の産業を支えた。東鼎の「天龍社(てんりゅうしゃ)など」。女工(じょこう)さんの寄宿舎もあったなど、一時代のこの地域の産業を支えた。	JAみなみ信州農協、天龍社など 鼎の歴史を学ぶ会など	通年
産業	水引	この地域では、元結などの水引工芸が盛んである。下茶屋では、今も相撲協会に水引を納める工場などがあるなど、伝統が続いています。	鼎の歴史を学ぶ会など	通年
産業	その他	漬物、醸造所、和菓子などの産業も鼎地区に集まっている。また、松川沿いには石材屋さんなども複数ある。	鼎の歴史を学ぶ会など	通年
産業	鼎スター(りんご)	昭和40年代後半から、鼎地域で栽培されたリンゴ。鼎上山の故、鷲見兼男氏の尽力によるもの。一時代の農家の生計を支えたが時代の流れとともに現在ではフジなどの主力品種に変わる。現在でも何軒かの農家で栽培が続けられている。	鼎の歴史を学ぶ会など	
産業	アメリカン(いちご)	戦後、イチゴ栽培が鼎上山を中心に栽培、出荷されていました。飯田線で「担ぎ屋」と呼ぶ人たちが訪れ、切石駅も賑わいました。イチゴは湯治客でにぎわう諏訪や岡谷の温泉地の軒先に並べられ好評を得ました。	鼎の歴史を学ぶ会など	
文化	運松寺鐘楼門(うんしょうじしょうろうもん) [市有形文化財]	門の2層目(2階)に鐘つき堂がある、鐘楼門というタイプの門。	鼎の歴史を学ぶ会など	通年
歴史	下茶屋の道標 [市史跡]	宝暦10年(1760)に設置。遠州街道と伊久間街道の分岐点で秋葉街道の方向を示している。	鼎の歴史を学ぶ会など	通年
自然	鼎一色の大杉 [市天然記念物]	樹高およそ38m、目通りの周囲およそ4.8mの大杉。	鼎の歴史を学ぶ会など	通年

上郷地区

上郷公民館
TEL 24-7744

分野	主な内容	説明	講師	時期
歴史	上郷の地名	地名は地域の重要文化財、文化遺産、その地の履歴書です。合併や開発等で古い地名が消えています。災害地名を含め上郷内の地名(小字)の由来を通して地域を学びます。	上郷史学会 伊那谷地名研究会 下黒田東地名研究会	通年
歴史	野底山の昔と今	野底山の山と水の恵みにより人々の生活があった。上郷の財産として守り育てられた上郷のシンボリック的存在。この歴史とともに現在も活用されている姿を知ってもらいたい。	野底山愛護会 野底山財産区 野底山を知る会	通年
歴史	野底山の歴史と文化	野底山の歴史と文化・野底山論の展開・野底山の伝承や信仰・野底山の地名・埋没木をはじめ、上郷の林業の歴史と山の生活全般について伝えたい。	野底山を知る会 上郷史学会	通年
歴史	上郷の歴史	上郷の歴史と文化の全般・上郷の史跡や文化財・祭や信仰・古道や明治以降の道・上郷の歴史を振り返りながらこれからの上郷と一緒に考えたい。	上郷史学会	通年
産業	原六右衛門(はらろくえもん)	蚕種(さんしゅ)改良家、天保8年～明治44年。六右衛門は特に蚕種及び桑の品種改良に力を尽くし、その技術を多くの人々に教え広めた。	上郷史学会	通年
歴史	上郷の石造文化財	道端や寺社の境内、畑の隅に石像や文字だけの石碑など多くの石造物を見かけます。これら石造物から江戸時代から現代に至る上郷の人々の生活の姿に迫ることができます。	上郷史学会 伊那史学会 南信州文化財の会	通年
歴史	上黒田の五輪塔 [市有形文化財]	この塔の建てられた年代は、鎌倉時代か室町時代だろうといわれている。上郷地区では最古の石塔で、安置された場所は何度か変わっている。	上郷史学会 伊那史学会 南信州文化財の会	通年
歴史	旧飯田城の桜丸西門(雲彩寺山門) [県史跡]	雲彩寺の門は、飯田城桜丸の脇門だった。飯田藩廃藩後、飯田城は明け渡され、城門などは買い取られた。雲彩寺の門も別府経蔵寺(きょうぞうじ)の門も同じような運命をたどった。	上郷史学会	通年
歴史	経蔵寺(きょうぞうじ)山門 [市有形文化財]	この門は飯田城桜丸門として建てられ、その後転々と移り、大正3年に経蔵寺の門となった。安土桃山時代の遺風を持つ貴重な建造物で、国の重要美術品に認定されている。	上郷史学会	通年
歴史	黒田人形浄瑠璃 [国・県無形民俗文化財]	黒田人形浄瑠璃の発祥から今日に至る明神講や保存会の歴史を学びます。国重要有形文化財の人形舞台や伝承館、人形や衣装づくりなど文化の保存・活用・継承の営みを語ります。	黒田人形保存会 黒田人形座	通年
文化	操人形「老女形の首(ろうじょぎょうのかしら)」(黒田人形) [市有形民俗文化財]	黒田人形には100を超える人形の首が保管されている。その中に植毛した老女形の首に、「元文2年(1737)竹本松穂作」と銘の入ったものがある。これは製作年のはっきりした操人形の首としては、日本最古のものといわれている。	黒田人形保存会 黒田人形座	通年
歴史	上郷の考古学	上郷の考古学は、戦後、高校生が大活躍してその基盤がつくられました。上郷の考古発掘のこれまでの成果や発掘・整理の作業の実際を紹介します。考古博物館の案内など。	上郷考古博物館 下伊那考古学研究会	通年
歴史	飯沼雲彩寺(うんさいじ)古墳 [県史跡]	下伊那では最大規模の前方後円墳。郡内の石室開口部はほとんど南か東向きなのに、ここの石室は西向きに造られている。出土品で残っているのは金環1点と馬鈴2点。	上郷考古博物館 下伊那考古学研究会	通年
歴史	木炭棺(もくたんかん) [市有形文化財] (黒田垣外遺跡出土)	垣外遺跡で弥生時代後期の集落跡が発見され、その一つの墓に木炭棺が埋葬されていた。調査後、上郷考古博物館に移設。板状の炭化材が長方形に残存し、内部には副葬品は無く、骨片が10点程度出土している。	上郷考古博物館	通年

歴史	上郷の文学碑	上郷の歌碑をはじめ飯田下伊那の文学碑の碑文や、その碑が造立された背景などについて紹介します。校内はじめ身近な歌碑をとおして豊かな上郷の文化を学んでほしい。	ふるさと文学碑研究会	通年
文化	上郷の年中行事・行事食	お正月、何を祀り、何を食べますか。何故でしょう。脈脈と受け継がれている行事があり、行われなくなってしまったものもあります。あなたの家の年中行事は？どうかな。	上郷史学会	通年
自然	上郷の地質・地層	日本列島や伊那谷の形成から、クレーターをはじめ地球物理学の世界から、ふるさと上郷の成り立ちを地形・地層等の自然から考える。現地調査の実際や研究の歩みなど。	伊那谷自然友の会	通年
自然	上郷の喋々	信州全域から伊那谷の喋々の生態を紹介する。喋々の研究を通して自然環境変化を考察する。喋々をはじめとする昆虫などの調査研究からのふるさと学習を提案する。	伊那谷自然友の会	通年
自然	上郷のアサギマダラ	アサギマダラの生態やアサギマダラ研究のネットワークなど調査研究のロマンを語る。上郷のアサギマダラの到来の実際と調査研究上の留意点などを紹介する。	信州アサギマダラ研究会	通年
自然	モリアオガエル繁殖地 [県天然記念物]	梅雨時になると山奥からカエル沼にかえって来て、産卵する。白い泡の中に卵を300個程産みつける。1週間程でオタマジャクシに育ち、水の中へ落ちて泳ぎ出す。やがてカエルになり、9月中旬頃森の奥へ巣立っていく。野底山池の平の「カエル沼」はモリアオガエルの繁殖地として県の天然記念物に指定されている。		
自然	浅間塚の一本杉 [市天然記念物]	樹齢は定かではないが、300年程と推測される。この杉は昔から浅間社のご神体として信仰の対象になっている。8月下旬には神社総代が集まって、風神祭を行い風水害を防ぐ祈願をする。	野底山を知る会 上郷史学会	通年
地域づくり	公民館の活動	飯田下伊那の公民館活動は全国的にも注目されています。上郷の公民館も歴史を刻み、上郷の地域づくり人づくりに貢献してきました。地域の先輩の幅広い活動から学ぼう。	飯田市公民館 上郷公民館	通年

上村地区

上村公民館
TEL 0260-36-2211

分野	主な内容	説明	講師	時期
文化	霜月祭 [国重要無形文化財]	国の重要無形民俗文化財でもある霜月祭に愛着と誇りを持つため、横笛教室、各神社の舞いの練習はもちろん、歴史的背景や現在の課題などを学習してもらいたい。	上村遠山霜月祭保存会	12月
環境・地域づくり	小水力発電	現在取り組んでいる上村小水力発電の経緯・現在の概要をこれからを担う生徒たちに知ってもらいたい。	上村小水力発電検討協議会	通年
文化	事の神送り(ことのかみおくり) [市民俗文化財]	かつては2月8日に上村地区全域で行われていたが、現在は上町地区だけとなっている。「事の神を送るよ」と唱えながら各戸を廻る行事を歴史から学習してもらいたい。	上町自治会	2月
文化	御祝い棒(ごいわいぼう) [市民俗文化財]	1月14日に、男性を象徴する「御祝棒」を子供たちが持って、その年結婚した夫婦の家へ訪れて棒でたたき、よい子が生まれるのを祝う行事である。歴史から学習してもらいたい。	上町自治会	1月
文化	正調「絵島」 [市民俗文化財]	上町の盆踊りとも言われている。高遠で劇・歌・舞踊として流行したが、上町でも現在息づいている。実際に舞踊を覚えてほしい。	上町自治会	
文化	下栗掛踊り [市民俗文化財]	この行事は昭和12年ころから一度中断し、昭和47年に復活した雨乞いのお祭りであるが、歴史は深く広いので学習してほしい。	下栗自治会	
文化	中郷獅子舞 [市民俗文化財]	江戸時代末期、中郷住民が悪疫・飢饉をのがれるために獅子によって悪魔を追放して1年を安泰に過ごすことを願って大鹿村から伝授されたのが始まりとされる。実際に獅子舞を覚えてほしい。	中郷自治会	
歴史	御池山隕石クレーター	隕石衝突の痕跡が確認できる日本唯一のクレーター。45mの小惑星が2~3万年前に衝突したと推測される。		通年
文化・食育	風折(かぜおれ)のエノキ [市天然記念物]	幹の周りが約5.6mある巨木です。木の根元には、物を無くした時にお参りするとご利益があるとされる「御社狐狸様(おしゃぐりさま)」がまつられています。		通年
文化・食育	朴葉餅(ほうばもち) [県無形民俗文化財]	朴葉の殺菌力を生かし、木曾谷と下伊那南部の山村では、朴葉飯、朴葉強飯、朴葉結び、朴葉寿司、朴葉巻などがつくられた。上村でも作る家庭は少なくなったが、端午の節供の行事食として伝承されている歴史を、実際に作って食べてほしい。		通年
文化・食育	遠山郷の二度芋の味噌田楽 [県無形民俗文化財]	信州遠山郷の標高800~1000mの急傾斜畑でつくられてきた馬鈴薯で、集落名「下栗」からその名がつけられた。肌色が白と赤の2系統があり、白いものはさらに早生と晩生に分かれる。赤いものは、かつて栽培されていたものは、休眠が浅く7月に収穫した芋を植えると、10月にまた収穫できた。それで「二度芋」。食糧難時代には貴重な品種だった。白いものは粉質が強く、ふかすと割れるほどだが、甘味・旨味ともに強い。赤いものは、よくしまっていて、煮崩れしにくく、貯蔵性もよい。そのため、名物料理「芋田楽」にぴったりだ。田楽は、小さめの芋をゆでて、三つほど串刺しにして、地元産の味噌とえごまが入ったタレをつけて、囲炉裏端で焼いた。これが、平成13年に長野県選択無形文化財に指定されている。	下栗自治会	通年

南信濃地区

南信濃公民館
TEL 0260-34-5111

分野	主な内容	説明	講師	時期
文化	霜月祭り [国重要無形文化財]	国重要無形文化財に指定されている遠山霜月祭りは毎年12月を中心に地域内の神社で行われている。地域にとってお祭りは生活の一部であり、お祭り当日だけではなく、至るまでの地域の関わり方(様々な行事)を知ってもらいたい。	各地区保存会等	通年
歴史	鬼神面(きしんめん) [市有形文化財] (青龍寺)	般若面が成立する以前の南北朝から室町初期の作と推定され、県内屈指の古面として貴重である。	美術博物館	通年
歴史	鬼神面 [市有形文化財] (木沢八幡神社)	鎌倉時代から南北朝時代の作と推定され、県内最古の古面として貴重である。	美術博物館	通年
歴史	此田神楽 [市民俗文化財]	約280年前愛知県新城から伝えられたといわれる、伊勢神楽の流れをくむ獅子神楽である。	此田神楽保存会	通年
文化	柚餅子(ゆべし) [県無形民俗文化財]	味噌・米粉・うどん粉・砂糖・クルミなどをまぜ、柚子の実の汁を加えて蒸した菓子である。	食生活改善グループ	通年
文化	遠山郷の二度芋の味噌田楽 [県無形民俗文化財]	二度芋はじゃがいもの在来種で、甘みがあり、煮物などに使っても荷崩れしない。これを味噌田楽にし炭火であぶった郷土食である。	食生活改善グループ 地域の民宿等	通年
歴史	遠山森林鉄道	遠山森林鉄道の歴史を学ぶとともに、現在地域資源として活用している実践事例を体験と合わせて行って欲しい。	夢をつなごう遠山森林鉄道の会	通年
歴史	梁木島番所跡(はりのきじまばんしょあと) [市有形文化財]	秋葉街道沿いに置かれた関所で、慶長19年(1614)遠山景直が一族を置いたことに始まり、天明7年(1787)に現在地に移転した。	美術博物館	通年
歴史	遠山土佐守(とおやまとさのかみ)一族墓碑 [市史跡]	龍淵寺境内にある遠山一族の墓所で、土佐守景直とその子加兵衛景重の墓碑がある。		通年
防災・環境	川の流れ・道の移り変わりから地域を学ぶ	V字渓谷の地域であり、埋没林を含め地域と災害の歴史的な関係は深い。遠山川も幾度となく氾濫し、居住地や道路も変化してきている。当時の川のはどこを流れていたのか、道はどの様に通っていたのかを学び、地域がどの様に災害と闘ってきたかを知ってもらう機会としたい。	地域住民	通年
環境	森林学習	森林との営みは、この地域では切り離せない歴史的な背景がある。特に中学校財産として学友林を保有し、作業を行ってきた。今一度、何故学友林として整備してきたかといった背景を学び直すと共に、山と共に歩んできた地域について知ってもらいたい。	森林組合 猟友会	通年
歴史	遠山土佐守一族墓碑裏方杉の木 [市天然記念物]	龍淵寺(りゅうえんじ)境内にある遠山一族の墓所裏手にある杉の老木である。4本の巨木が並んでそびえている。	龍淵寺	通年
産業	和田宿	和田にいけば何でもある。と郷土史にも触れられているように、和田宿はある意味職人のまちとも言える。和田宿に点在する商店がどの様なものがあり、今日に至っているかを調べる。	まちけん 商工会等	通年
歴史	青崩峠 [市史跡]	信濃と遠江の国境にある峠で、秋葉街道の往時の姿をわずかにとどめる。	遠山郷観光協会	通年

環境	自然エネルギーの活用	昔の自然エネルギーと新たな自然エネルギーの利用。和田小水力発電、飯島発電所など、水力を使った取り組みはこの地域でも行われてきている。歴史的な背景を学ぶと共に、現在取り組んでいる自然エネルギー等を活用した取り組み(ペレット、温泉を利用したトラフグ)について知ってもらう。※上村小水力とのセットが理想	南信濃振興公社他	通年
その他	遠山にかかる多くの橋	谷間の地域にあり、他地域とは比較できないほどの多くの橋が架けられている。”橋”をキーワードに人の営み(集落の変遷)、交通などがどの様に展開してきたかを知ってもらう。	教材:遠山村史他	通年
その他	高齢者への聞き取り	高齢者から、当時の事柄、生活様式、村の様子などを聞き取り、地域がどの様に変遷してきたか学ぶ機会とする。南信濃地区では昭和60年頃までに、高齢者の語り～ふるさとの伝言～を作成し、4集まで発刊している。平成26年度に約30年振りに発刊に目指し検討を進めている。ともに、聞き取りしたものを編集し発刊したい。	地域住民	通年
歴史	遠山郷に伝わる民話	遠山郷には古くから伝わる民話が数多く残されている。	※南信濃村教育委員会発行「椀かしぶち」「遠山風土記」	通年